

紀州候江戸藩邸大奥日記

天保十四年

紀州候江戸藩邸台所日記

卯九月より十月まで

天保拾四年卯九月朔日

一、大納言様今日御登

城可遊之处御疝積氣につき

御延引被遊候

一、御城御使

茂尾
梅尾

一、御貳所様江貳日御祝儀

百人町より御文二而被仰上候

一、越前守殿より御同様御祝儀御文二而

仰上まいらせ候

一、御貳様より

御誕生様へ

御重 一組

一、右被進候

一、大納言様江

尾張御簾中様よりこん日御登

城可遊候所御疝積氣に付御延引

被遊候御事被爲聞右御見舞之御文

二而仰進まいらせ候

一、右に付御機嫌伺候て

尾笏様

前大納言様御国許へ申上段申上候

裏辻

一、峯壽引様より右に付御見舞奉文にて

一、仰せ進まいらせ候

一、右に付御機嫌伺候て

水戸様御国許へ申上度段申上候

花の井

初

一、大納言様江

水戸様より先月廿五日公家衆御饗應

御能ニ付御登

城被遊之处御疝積氣二而御延引被遊

候事被爲聞右御見舞奉文にて仰進ま

いらせ候

御簾中様書入

一、大納言様江

峯壽院様より

御礼守 貳通

御宮札 一臺

右ハ當月につき山王ニおいて

御湯花 仰付まいらせ候由奉文ニ

而御進候

一、大納言様より

峯壽院様へ右に付御挨拶被仰進候

一、御誕生様へ御機嫌伺

百人町より御ふみにて仰まいらせ候

一、大納言様より

肴 一折

さつま

姥

一、右ハ上合ニ付被下候

御簾中様より 式すし みき

右ハ枕の内御尋として被下候

肴 一折ヲ

同
断

一、大納言様江

妙傳寺 佛性寺

取出ル

靈雲寺
佛性寺

一、御城御使

梅 波
尾 江

一、公方様より重陽之御祝儀として
大納言様江

五
ツ

一箱

行
器

一 は こ

右大將様

干多い

同断

右之通奉文を似御拝領戴被遊候

一、大納言様江

喜代姫様より重陽の御祝義として

干
鯛

一箱

右奉文二而御進候

御簾中様御書入

一、御貳所様より

御誕生様へ

御肴
一鉢

右ハ御躰緒御すべり遊候付
態と被進候尤こん日ハ御日柄ゆへ

夕方被進候

一、御簾中様より

御誕生様へ

眞砂餅 一鉢 眞砂餅ハ紅斗

一、右被進候

大納言様江

峯壽院様より

御上り箱の内

右ハ御到来被遊候由御奉文ニ而

一、進まいらせ候

御誕生様江 御機嫌御伺

一、百人町より御文ニ而仰上まいらせ候

大納言様江

峯壽院様

松栄院様

盛姫君様

溶姫君様

末姫君様

喜代姫君様

誠順院様より重陽の御祝義として

表向御使をもて御目録之通被進候

に付右の御挨拶奉文ニ而仰進まいらせ候

一、大納言様江

理趣分

御札守

右例月の通差上候

一、御誕生様御符取出ル

靈雲寺

仙壽院

淨性院

法明院

九月三日

一、御城御使

一、大納言様より

御誕生様へ

御壽司

右被進候

一、御簾中様より

さつま芋 一鉢

右ハ御方の者へ被下候

一、大納言様より

峯壽院様江

御小食

御小重の内

御簾中様御書入

籠一対

なら漬

おさかな

おにしめ

おあか

右ハ少々御様体あらせまいらせ候由

きかせたまひ 右御見舞仰進られ

御註文ニ而被進候

御返事二此程少々時かふに被爲當御

燗氣阿らせまいらせ候ゆへに御座候

や御はぐきより御出血遊候所もはや

御とまり遊昨今は御燗氣も御うすら

ぎ遊夜中もよう御寝遊御氣然も御宣

御膳等も御程よふ御手附させたまひ

御両用の御通しも御増阿そばし御惣

体御平の内御よろしき方にあらせま

綾小路

一、大納言様江
松栄院様より

御札守 式通

御宮物 一臺

右ハ當月ニ付山王ニおいて御湯花
仰付まいらせ候由奉文ニ而被進候

一、御貳所様江

因幡守殿より折からの御機嫌御伺

御文にて上仰まいらせ候

一、御誕生様江御機嫌御うかゞひ百人町

より御文 ニ而仰上まいらせ候

一、御簾中江

於脩殿より

御重 貳

御籠の内 蛤

右ハ折からの御機嫌御伺仰上給

慰にもと御文ニ而御上被成候

一、御三方様江

御巻数 一箱ツツ

御洗米 一箱ツツ

右當月ニ付差上候

仙壽院

一、大納言様江

御簾中様江

御洗米

昆布

一箱ツツ いけ上
一箱ツツ 日脩

右ハ一昨日朔日繼目御札首尾能
相済候ニ付御祈祷申上之由差上候

一、左の通百人町へ

御誕生様阿らせまいらせ候に付御歡

仰上給御使明後五日御めで度御上

遊候様申出ス^候

一、大納言様

一位様江

御札守

一臺ツツ

ゆしま
圓満寺

御札守

一臺ツツ

白かね
本壽院

右當月につき差上由御廣敷廻り

九月四日

一、御貳所様より

御誕生様へ

御さかな 一折

右ハ御七夜の御日数ニ付態と被進候

尤御祝義ハ追而あらせまいらせ候

一、御貳所様より

さかな 一鉢

みき

右に付被下候

一、御簾中様より

御誕生様へ

九月五日

一、御誕生様被爲在候ニ付右御歡として

御使

花岡

一、大納言様より

右被進候

御すし 一鉢

重 一組

すし 二 みき

眞砂餅

右破下候

一、御誕生様へ 御機嫌御伺

一、百人町より 御文ニ而仰上まいらせ候

一、大納言様江

御巻数

御洗米 妙傳寺

右當月ニ付差上候

一、御簾中様より

白銀 壹枚 岡 了允

右ハ初而

御目見申上候につき被下候

一、御貳所様江

御誕生様あらせまいらせ候ニ付右

御歡御文而申上候

春光院

正壽院初

出入

一、

一、大納言様江

御貳所様江 一折

御三方様より

式部大夫様

美壽姫様より 壹臺

左京大夫様より

外に 御札守 一折 同断

御誕生様江

御簾中様江 一折 同断

同断

美壽姫様より 一折 御目錄

鯛

式部大夫様

左京大夫様

大納言様江

御三方様より

御塗重 一組

右之通御上あそばし候

一、大納言様より

右御使右相勤候付さかなとして

貳百匹 三通 花岡

御簾中様より

同断ツツ 三通 同人

右之通被下候

一、御簾中様より

左京大夫様御初へ

御肴 一籠

右御使販りニ付被進候

一、御貳所様より

御誕生様へ

御重 一組 幕の内

右被進候

一、大納言様江

淡路守殿より

御籠の内 葡萄

右ハ折柄の御機嫌御伺仰上給ひ御

慰にもと御封文ニ而御上被成候

一、御貳所様江

百人町より御機嫌御伺被仰上

御誕生様御機嫌をも御伺文にて

仰上まいらせ候

一、御誕生様より上り合につき

交肴 一折

岡 了允

さつま 姥

同断

右

一、大納言様江

御附守

御洗米

池上 脩

右當月ニ付差上候

一、定式御飛脚出ル

一位様江

御簾中様より

御書 貳通

右ハ御上被遊候

一、御荷物便り着致候

一、今日引越上ル

数寄屋かし

伊勢屋

松五郎娘

志ま事

歌路

一、改名致させ候

一、大納言様江

根来

護 御札守 律葉院

伊太祈曾

御祓

壹

御簾中様江

御札守

根来

護符

律乘院

右之通當月二付御差上候由御廣敷廻り

九月六日

一、大納言様

御貳所様より

峯壽院様江

御重

一組

御さかな

おにしめ

かさゝき巻

難波かん

まんちう

右ハ其後の御様子被爲聞御封文にて被進候

御返事二時かふの御障もあらせられ
ずの中よう寝遊御目覺後御氣然も御
宣御膳等も御程よふ御手附させ玉ひ
御通じも御増阿そばし御燐氣も追々
御うすらき遊御惣躰御手に阿らせま
いらせ候段申来ル

一、御貳所様より

御誕生様江

御重

三

おにしめ

ゑんめい餅

なるとかん

まんちう

一、大納言様江

溶姫君様

末姫君様

誠順院様より

御札守

御宮物

貳通ツツ

右ハ當月二付 山王ニおいて御湯

はな御付まいらせ候由 奉文ニ而被

進候

一、御貳所様江

百人町より昨日御使御

上げ阿そばし 御口上仰まいらせ候

所御返答仰進まいらせ候二付右御札

旦御簾中様より御使販り二付被進物

被爲在二付右御札も御文二而仰上ま

いらせ候

一、御貳所様江

昨日頂戴物致候につき

右御札申上候

御誕生様御符取出ル

武州府中六社神主

仙壽院

花岡

猿渡近江娘

ふみ

御誕生様御三之間被

召抱 御切米御扶持方並之通

被：下置候

此度被

同人

召抱候付其身一代永御暇之儀
親類よりも堅申上間敷候

申渡 戸無瀬

出房 波江

一、改名被下候 なみ事 千世野

きみ

九月七日

一、當月二付御庭三社へ

御代参 綾小路

大納言様より 表使 ほり井

御初穂 銀一両ツツ

使ばん

壱人

此度

御誕生様あらせまいらせ候二付

御半下

御初穂 銀一両ツツ 壱人

右之通

一、當月二付御庭三社へ

御簾中様より

御代参 梅尾

御初穂 銀一両ツツ

右之通尤御腹中にあらせ玉
ひ御代参ハ来月六日御座候

一、大納言様江

水戸様より去ル朔日御登

城可遊之忝御疋積氣にあらせ玉ひ

御延引被遊候事被爲聞右御見

舞奉文にて仰進まいらせ候

御簾中様御書入

一、御簾中様より

御誕生様へ

御重 貳雜

右被進候

一、大納言様 明八日東叡山へ

御豫参旦来ル 九日御登

城被遊旦又御平日御符取出ル

靈雲寺

佛性寺

一、大納言様江

御巻数 一箱

御洗米 一箱 佛性寺

右當月二つき差上候

一、御誕生様 御符取出ル

仙壽院

一、左之通百人町老女へ

来ル十一日

淨性院

御誕生様御七夜御しう義整せ
いらせ候につき同日ハめで度
御使御上遊候様申出ル

九月八日

一、大納言様より

御誕生様へ

御重

貳

三色御柏
久壽御柏

右被進候

一、御荷物便り出ル

一位様江

大納言様より

御拝領之

干鯛

一枚

御簾中様より

干多い

一枚

御樽

一ツ

菰

一箱

外に

御菓子

一はこ

ぬかこ

一はこ

御部屋様へ

菰

一はこ

右之通御上ケ進候

一、西浜御殿江通り物

御拝領の

御菓子

一箱

一、京都へ廻り物

眞明院殿より御備之

白銀

一枚

御菓子代

貳百匹

右之通り

一、大納言様御誕生御祝義二付

御簾中様江

生鯛

一折 御目六

右之通各御作略ニ而被進筈に候間宣御取斗
被成可候尤御品は明朝御臺所より爲相廻可
申候之に依て御目録壹通相廻

申候旨

手紙入ル

一、重陽爲御祝義明九日

一位様より

峯壽院様

松栄院様

盛姫君様

溶姫君様

末姫君様

喜代姫君様

誠順院様

右之通御届被遊筥に候間右奉文之儀宣
御取斗可被成旨 手紙入ル

一、 明九日御誕生日ニ付

銀 壹枚 御乳附壹人

同断 御乳持壹人

右之通被下筥二付相廻申候被下之儀仰
之通宣御取斗て被成候旨 手紙入ル

九月九日

一、 大納言様例刻御供揃二而御登城被
遊候

一、 御城御使 綾小路 梅その

一、 公方様より重陽御祝義として

一位様江

時服 五ツ

干多い 一箱御目録

右之通奉文を以御拝領被遊候

一、 御貳所様より重陽様御祝義

百人町へ御文ニ而仰進まいらせ候

一位様御書入

一、 大納言様より

田安一位様

右衛門督様

清水中納言様

民部卿様江右御祝義奉文にて

仰進まゐらせ候

田安へ斗
此御簾中様御書入

一、 一位様より

峯壽院様

松栄院様

盛姫君様

溶姫君様

末姫君様

喜代姫君様

誠順院様江右御祝義奉文にて

仰進まいらせ候

一、 御貳所様江 右御祝義奉文ニ而仰進

まいらせ候

百人町より御ふみニ而仰上候

一位様御書入

水月様御書入

一、 御三方様江

越前守殿より右御祝義御文ニ而仰上候

一、 大納言様江 右御祝義につき

峯壽院様

松栄院様

盛姫君様

溶姫君様

末姫君様

誠順院様より

干鯛

一箱ツツ
御目録

右之通

二而進候

一、一位様江

峯壽院様

松栄院様

盛姫君様

末姫君様

喜代姫君様より右御祝義

二而進候

一、大納言様江

田安斗 此御簾中様御書入

田安一位様

右衛門督様

清水中納言様

民部卿様より右祝義奉文二而仰進まゐらせ候

一、大納言様御誕生につき

一位様より

御肴

一折 御目録

御簾中様より

同断

一、大納言様より右につき

御簾中様江

御さかな

一折 御目録

右之通被進御上ケ被遊候尤御目録済にて
御肴は御祝あらせまいらせ候節相廻候筈

一、大納言様より

白銀

一枚

ま那
お茂

右表使御文二而被下候

一、公方様

右大將様

一位様

御簾中様より

大納言様江

多い

一折

右ハ御誕生日ニ付御内々ニ御封入にて
御拝領御戴被遊候

一、御簾中様より

御誕生様江

御重

三

おすし 一
もなか 二

右被進候

一、大納言様より

峯壽院様江重陽の御祝義として

御目録之通被進候ニ付右御挨拶

奉文二而仰進まゐらせ候

一、大納言様江

松栄院様

御簾中様御出入

盛姫君様

末姫君様

喜代姫君様

誠順院様より表向御使を以重陽の
御祝義仰進まゐらせ候に付右御挨拶

一、奉文ニ而被進候
一位様より

祐天寺
法住寺

御初穂

貳百匹

右ハ此度御内々ながら

大納言様御妾腹に

御姫君様御誕生阿そばされ候に

つき御すらくと御肥立遊御丈

ふさまに御成長あそばし候様御

祈禱を被仰付候

一、御部家様より

同

一百ひき

円満寺
法明寺

右御同様に付御祈禱仰付被

杵浦初名前文ニ而出ル

一、御内證方より

同断

仙壽院

右同様ニ付御祈禱頼上申度

御祐筆より文ニ而申出

一、御扎御守等上ル

一、御誕生様江

御守

仙壽院

右ハ鬼子母神前ニ而毎月廿一日

二御祈禱の御題目執行仕昨年九月

月より當八月廿一日まで御題目

一千部成就候ニ付丹誠に祈念申

上猶昨八日御縁日ゆへ御經上

ケ御すらくと御肥立遊御丈

ふさまに御成長阿そばし候様

精々御祈禱申上由差上候

一、左之通麴町老女より

兵部大輔殿来ル十五日

日光山へ御参詣被成候段申来ル

一、吉川六兵衛娘とわ

御誕生様御三之門

召出御切米御扶持方並之通

被下置候

同人

此度の

召出候付其身一永代御暇之儀

親類よりも堅申上間敷候

銀五枚

同人

此度の被

召出候付爲仕度銀被下候

申渡し

出房

増田

一、改名被下候

とわ事

佐山

一、定式飛脚着致候

上々様方御機嫌克被成候段暇申来ル

一、右之通

表使格

道野

御風儀に不應其上ふ正之儀
有之ニ不永々御暇被下候

右之通道野事被

仰付候御事永見恐入奉り

差扣の御事玉井初迄申出候

右之通永見より申出候ニ付御手前

方まで此段申上候段藤山初より

申来ル

一、大納言様江
御扎守

吹上

明王院

護附

右差上之由御通り

一、田安様御用人より切紙を以明後十一

日公方様六半時前之御供揃ニ而

水馬爲上覧大川筋江被爲

成候節箱崎御屋敷

御通拔被遊候旨被

仰出候之段爲御知申来候御心得申進
手紙入ル

候旨

九月十日

一、當月ニ付大般若經被

仰付円満寺出ル

御貳所様より

御初穂 百匹

右御備被遊候

一、大納言様より

御誕生様江

吉野餅

式

紅白

右被進候

一、明十一日

公方様六半時御供揃ニ而大川筋へ

被爲成夫より

右衛門督様箱崎御屋敷御通

拔被遊筈之旨 手紙入ル

九月十一日

一、此度

御姫様御誕生被成在之處

思召有之表向御弘は不仕

仰出御名之儀は

伊曾姫様と奉称

御簾中様御養被候旨年寄衆より仰

一、聞候事候

今日御七夜御祝義御整被遊ニ付御

名被進振等の儀

御簾中様御用人中江及打合置給

ひ候通に付

伊曾姫様江御進物等其外表向何

等取斗無之候間大奥にて宣御取

斗て被成候

尚御七夜御祝義の整遊ニ付今日

御姫様江御名被進之御使奥掛り
相勤候筈ニ付是又

御簾中様御用人中へ打合置玉ひ候通

一、大納言様より

伊曾姫様江御七夜御祝義

御産衣 一重

干多い 一箱 御目録

一、一位様より

御産衣 一重

干多い 一箱 同断

御簾中様より

御産衣 一かさね

干多い 一はこ 同断

御部屋様より

御産衣 一かさね

御さかな 一折 同断

多い 一折 御目録

御内證御方

一、大納言様より

一位様江

鯛 一折 御目録

御行 一荷 数十三

御簾中様江

多い 一折 同断

御行 一荷 同

御部屋様江

御さかな 一折

一行 一荷 十一

一、さかな 一折

御内證御方

食籠 一対 九ツ

一、一位様より

大納言様

御簾中様江

御肴 一折 御目録

御部屋様より

御肴 一折 同断

一、大納言様江

御簾中様より

御さかな 一折 同断

一位様江

御肴 一折 同断

御部屋様江

御同断

一、さかな 一折

右之通被進御上ケ旦うのへ遣せられ
御内證御方
一、尤若山へハ五日に御頼申出ル
大納言様江

御肴

一折
御目録

御内證御方

同断

杵浦

その沢

野川

茂尾

波江

阿曾尾

石井

みき

御目録代百匹

一、御目録代百匹

同断代貳百疋

三出山

同断

添姫

綾小路

同断

阿曾嶋

石井

一、御簾中様江

御さかな

一折
御目録

御内證御方

同断

綾小路

同断

石井

一、御貳所様江

御肴

一折
御目録

高嶋

藤山

添姫

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

一しゆ
御目録代百疋
みき

一しゆ
御目録代百疋
三ほ山

同断代貳百匹

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

馬場源右エ門
齋藤平兵衛
牧應輔

小谷作内妻

筒井平蔵

井田大記

筒井平蔵

井田大記

筒井平蔵

井田大記

馬場源右エ門

齋藤平兵衛

牧應輔

多記樂眞院

坂幽玄

岡了允

一位様より

御簾中様より

三通

同人

同断

三通

外に御包の内

右下候

一、御貳所様より

左京大夫様御初へ

御肴 一鉢

御使販りニ付被進候

一、大納言様より右御祝義ニ付

左京大夫様

式部大輔様

眞壽姫様

御肴

一折

御目錄

一位様より

御肴

一折

同断

御簾中様より

御さかな

一折

同断

右之通御文ニ而被進候

一、公方様より

大納言様江

御ぶんこの内 嶋縮緬二反

御肴 一折

御簾中様江

伊曾姫様江 一折

御手遊ひ

御さかな 一折

一位様より

大納言様江 御ぶんこの内 八丈嶋二反

御肴 一折

御簾中様江 御さかな 一折

伊曾姫様江 御ぶんこの内 板

右之通封文ニ而御拝領御戴被遊候

一、御貳所様江

伊曾姫様より 多い

右御上ゲ 遊候

大納言様より

さあや 二卷代金三両

さかな 一折代二百疋

食籠 片し三ツ入

御簾中様より

さや 二卷代金貳両

一、御貳所様より

さかな 一折代二百疋

御肴 一折

御簾中様江

一、御貳所様より

さかな 一折代二百疋

御肴 一折

御簾中様江

一、御貳所様より

妻

一
对

同人

さつ
ま
姫

添
姥

添
姥

さつま
姥

添
姥

兩人

岡不允

同人

同人

多
記
樂
院

初

五人

津田佐助

同

貳百疋

貳百疋
覺書

伊藤八三郎

黒川瑞仙

徳田忠鷹

中村周甫

近藤良三

佐武才鷹

黒川棕仙

嶋川玄純

舟橋宗庵

坂出純庵

服部養節

郭延雪

中村泰淵

越山友丹

三上快庵

小野專エ門

菊嶋長玄

宇留野玄門

一、御用還り二付

金

千疋
覺書

同

七百疋
覺書

白銀

七枚

筒井平蔵

井田大記

津田佐助

伊藤鷹十郎

徳田忠鷹

同

同断

金五百疋

白銀

若山表以来道中并此度ハ格別

一、御用聞ニつき

貳百疋

百ひき
五百疋ヲ

右之通

一、御貳所様より右祝義につき

白銀貳枚

覺目録

綾小路
梅その初

金三百疋

同

阿曾嶋
石井初
若年寄
御館江初

貳枚

同

同

同

同

五枚

覺書無之

佐竹才鷹

高橋七左衛門

鳥淵三蔵

伊藤八三郎

三人

佐竹才鷹

中村周甫

玄純

郭延雪

郭延雪

郭延雪

郭延雪

郭延雪

郭延雪

郭延雪

郭延雪

郭延雪

郭延雪

郭延雪

郭延雪

銀三十九枚

金三両

御用還りに付

金千疋

五百疋

覺目録

金壹両

三百疋

一、御夜番につき

三百疋

両表
迄

惣初

御誕生様

惣初

綾小路

阿曾嶋

岡田

その井

村瀬

戸無瀬

久野

佐山

増記

なかつ

野園川

覺書

一、御用聞につき

白銀老枚

同

貳百疋

覺書無之

茂江尾

波野

梅野

沢野

梅尾

津山

駒野

増聞

三しま

岡鹿

鈴鹿

糸尾

龜井

成見

花川

瀧井

玉井

千世

葉山

き尾

こま

はま

磯初

御三子

三子

三子

千と

初勢

金貳両三分

百五十疋

百ひき

三百疋ヲ

右之通

一、御祝義につき

白銀貳枚

同
十五枚

七百疋ヲ

右之通

一、大納言様より

白銀
貳枚

ときわ
子供迄

火之番
初

余一所

子供

か
くれ

ま
れ

さ
か
初

藤山

高嶋

袖しま

久郎

福岡

若年寄

初

惣中

高浦

磯山

若山勤

表使初

惣中

野川

御簾中様よりも奥衆扱ニ而被下物
覺書

一、大納言様より

五百疋ヲ

覺書之無

百疋

戸無瀬

むら田

久野

か
う

み
津
木

難波

右ハ道中以来妊婦を世話致候に付

被下候

貳百疋

百疋

岡田

玉の井

葉山

一、右之通別段ニ下

大納言様より

貳枚
覺書

筒井平蔵

御簾中様より

御包の内

嶋縮緬

一、右御祝義につき
右ハ彼是取扱致候ニ付被下候

右御祝義につき

鳥の子餅
貳個

綾小路

初

阿曾嶋

石井

梅その

同三ツヲ兩人へ下

但し一ツ半

同一ツ

同五ツヲ

同五ツヲ

同三ツヲ

同十一ヲ

同五ツヲ

若年寄初

中年寄初

表使格初

御次頭迄

御祐筆初

呉服之間迄

御三之間迄

同子供迄九人

い御三之間

御末頭迄十人

かえみ

もみ

とまき

三玉木初

子供迄廿五人

千とせ

同七ツヲ

同五ツヲ

同三ツ

同式つ

同二つ

同一つ

同式つ

同一つ

同断

右之通被下候

ときは初

さかき

おち初

廿一人

御方御次初

御半下迄

筒井平蔵

井田大記

徳田忠鷹

佐武才鷹

津田佐助

伊藤爲十郎

中村周甫

玄純

廓延雪

馬場源右衛門

齋藤平兵衛

牧鷹甫

高嶋七郎左衛門

鳥淵三蔵

御

三人

右御残りにつき

七つヲ

黒川端山

遠藤良藏

黒川悰仙

島川玄丈

舟橋宗鷹

坂出純鷹

服部養節

中村泰渕

越山友丹

三上快鷹

小野

菊嶋長玄

宇留野玄門

同様に付
同壺個

松井

久むら

瀧瀬

右之通被下候

一、御貳所様より上り合ニ付

鯛

一折

水野土佐守

伊達但馬守

三井源十郎

伊曾姫様より

多い

一折

小谷作内

筒井平藏

井田大記

多い

一折

馬場源右衛門

交肴

一折

齋藤平兵衛

牧應輔

津田佐助

伊藤爲十郎

高しま七左衛門

鳥渕三藏

黒川瑞山

初

坂幽玄

惣医師

御普請還り

綾小路

三人

初

若年寄

初

梅その

初

瀧瀬

多い

一折

右之通下候

一、御賑やかしにつき

一位様より

御貳位様江

生花台

御酒

大納言様江

御簾中様より

御硯蓋物

一面

一徳り

一面

御内證御方

用廻り

御簾中様御養ニ遊候儘此段

御手まへ中へ申上候段園沢より申
出る

一、 峯壽院様より

伊曾姫様へ

御ぶんこの内御手遊び

右ハ内々の思召ニテ被進候

一、 伊曾姫様江

御手遊び 一台

三津山

御肴

右差上候

一、 大納言様より

白銀 貳枚

御簾中様より

三山

白銀 貳枚

右ハ御七夜御祝義ニつき

差上物致候ニ付キ被下候

一、 大納言様より

右京大夫様へ御初

御重 一組

右ハ御到来被遊候ニ付夕かたの

御慰ニもと御文ニ而被進候

一、 百町人より即刻御礼仰上まゐらせ候

御簾中様より

於儕殿江

御肴 一籠

右ハ折からの御機嫌被爲聞御慰に

もと御文ニ而此程上物被成候

段も認メ出る

一、 於儕殿より即刻御礼仰上まゐらせ候

一、 大納言様江

三河守より

青目籠御肴

右ハ折柄の御機嫌御伺仰上

御慰にもと御封文ニ而被上成候

一、 御貳所様江百人町より御進物阿そばさ

れ候

御礼御文ニ而仰上まゐらせ候

一位様御出入

御年寄

岡田

一、

其儘

御誕生様へ御附被遊候

右菊之間ニ而申渡ス

御次かう

表使格被

仰付下物本役之通被下置候

御誕生様相勤可申候

御誕生様

御三之間

いち

御誕生様御次被

仰付御切米御扶持方並之

通被下置候

申渡し

出房

波江
かう事
永田

一、改名
一、大納言様江

御肴

一しゆ

御目録代五十匹

御簾中様江

同断

永田

伊曾姫様江

同断

右ハ結備被

仰付候御礼申上差上候

一、御貳所様より

さかなとして

百五十疋

覺書

永田

伊曾姫様より

同断

右之通被下候

一、今日改名被

仰付候

阿曾嶋事

磯田事
福し多

三坂

浄性院

一、伊曾姫様御

法明院

一、昨夜九ツ時過市ヶ谷御門出火之處早

速鎮火ニ付御見廻御歡旁今朝

尾州様

御簾中様江

利姫様へも被仰入候

御内々より御届之儀宣御取斗候様

右之通

大納言様御簾中様御届被遊筈候間御

内より御届之儀宣御取斗可被成旨

手紙入ル

九月十二日

一、御城御使

一、當月ニ付安立院へ

御代参

大納言様より

表使

杓浦

安国殿江

御初穂

貳百匹

使ばん

老 人

黒御本尊江

同断

御半下

老 人

御簾中様より

御黒本尊へ

御初穂

百疋

伊曾姫様黒本尊御影御戴遊候二付

御初穂

百疋

右之通

一、大納言様江

安国殿

御供物

一箱

御酒一徳り

九月十三日

大納言様江	御簾中様より	御硯蓋物	一面	大納言様より	御簾中様江	御硯蓋物	一面	御二所様江	御部屋様より	御壽し	一鉢	ぬた代り	御すし	一鉢	右之通被進御 [?] 上げ旦差上候まいらせ候	大納言様江	御簾中様より	御すし	一鉢	外に	梨子	一臺	葡萄	右ハ御表之者へ	下にもと上げ遊候	一位様より	伊曾姫様へ	御食籠	一対	御添重	一組	右被進候尤御品ハ迫而相廻り候筈	大納言様明後十五日御登
-------	--------	------	----	--------	-------	------	----	-------	--------	-----	----	------	-----	----	---------------------------------	-------	--------	-----	----	----	----	----	----	---------	----------	-------	-------	-----	----	-----	----	-----------------	-------------

城被遊候二付御符御平日御符取出る	奥雪寺	佛性寺	淨性院	法住院	岡本右京	一、月例御符	一、大納言様江	月例の御符	當月二付	三種	一臺	右差上候	一、伊曾姫様月例御符	仙壽院	一、別紙之通り	公儀被仰出候間可相達旨御目付中より	申来御心得申進候	一、當年残暑も強候間	當月中夏服着用	可致候	右之通可被相觸候間可致其趣候	別紙之通被達并	御目以下并又もの等夏冬之服取交	勝手次第相用ふ苦候事	九月十四日	一、大納言様江	一臺	無量壽院	一、御三方様江
------------------	-----	-----	-----	-----	------	--------	---------	-------	------	----	----	------	------------	-----	---------	-------------------	----------	------------	---------	-----	----------------	---------	-----------------	------------	-------	---------	----	------	---------

九月十五日

一、	御礼	一臺	淨性院
一、	右當月ニ付差上候		
一、	大納言様江		
一、	御礼	一臺	称念寺
一、	右御差上候御廣敷廻り		
一、	月例之通御符取出ル		覺樹院
一、	阿部能登守殿より家来切紙を以		
一、	能登守殿儀今日御用ニ付登		
一、	城被致候処		
一、	公方様御頭痛頭ニ付御表		
一、	出無座候間御延に相成旨申来ル		
一、	御心得申進候旨手紙入ル		
一、	大納言様例刻御供揃ニ而御登		
一、	城被遊候	綾小路	
一、	御城御使	沢野	
一、	御貳所様江	貳日御祝儀	
一、	百人町より御文ニ而仰上候		
一、	一位様御書入		
一、	御三方様江		
一、	越前守より御同様御祝義御文ニ而		
一、	仰上まゐらせ候		
一、	御貳所様より		
一、	伊曾姫様江		
一、	御肴	一鉢	

一、	右ハ今日御産髪刺せ給ニ付		
一、	わさと上進候		
一、	外に		
一、	御すし	一鉢	
一、	右上进候		
一、	大部屋様より		
一、	御重	三	御にしめ
一、	右御あけあそばし候		御くわし
一、	御簾中様江		
一、	勝徳院殿より	三	
一、	御重		
一、	右折柄の御機嫌御伺仰上給御慰		
一、	にもと御上げ被成候		
一、	大納言様より當月につき		
一、	白銀	二枚ツツ	
一、	初穂料	二百疋ツツ	
一、	同	百疋ツツ	
一、	御磨御祈禱被	仰付候ニ付	
一、	神明八幡へ	二百疋	住心院
一、	同	百疋	
一、	一位様より		使番へ渡ス
一、	佛性院		
一、	妙傳院		
一、	覺樹王院		
一、	淨性院		
一、	法住寺		
一、	祐天寺		
一、	仙壽院		
一、	法明寺		

御初穂	二百疋	法住寺
同	二百疋	仙壽院
御簾中様より		
御初穂	二百疋	法住寺
同	二百疋	仙壽院
右御渡被遊候		
御三方様より		
放生会		
御初穂	百五十疋	仙壽院
大納言様より		
理趣分		
御初穂	百疋	靈雲寺
右例月之通御渡被遊候		
大納言様江		
御札		覺樹王院
御守	御洗米	
右當月ニ付差上候		
御表ニ而御長持御使御座候に付		
一位様江		
御貳所様より		
わたくさぎ	一箱	
御部屋様御内證御方へ		
有へい入		
煎餅	一箱を	
右之通差上		
御荷物便り	改候	

九月十六日

大納言様江		
尾州様		
前大納言様より去ル朔日御登		
城可被遊候処御疔癩氣に阿らせ給ひ		
御延引被遊候御事被爲御聞右御見舞		
奉文ニ而仰進まゐらせ候		
大納言様		
一位様江		
御札守	一臺ツツ	法住寺
御供物	一箱ツツ	
伊曾姫様江		
御すし	二重	如枡
右急度なく差上候		
伊曾姫様	御符取出ル	仙壽院
右之通書附出ル		法明寺
	御簾中様	
	御中臈	
	里勢	
無抛用事ニ付五夜泊り御暇		
戴明後十八日より下り申度由		
奉願候		
月日		
波江		
齋藤牧		
明十七日	紅葉山	
御宮并	御靈屋方江	
公方様御参詣之儀付被		

仰出候付
御豫参之儀も御沙汰付被
仰出候事候御心得申進候旨手紙入ル

九月十七日

一、品川東福寺観音上ル

御貳所様より

御初穂 貳百疋ヅツ

伊曾姫様より

御初穂 百疋

右之通御渡被 遊候例ハ

御貳所様より 三百疋御渡被遊候

一、御貳所様江 得共此度ハ右之通御渡被遊候

御扎 壹臺ヅツ 善光寺

御供物 一箱 上人

外ニ 御籠の内

右當月ニ付上ゲ申候

一、大納言様江

慈眼堂

御扎

御供物 一臺 一箱

住心院

右ハ護摩祈禱ニ被

仰付候に付差上候

一、京都八日出不時御飛脚着致候

九月十八日

一、大納言様より

蓮性院様へ

御重

右ハ折からの御機嫌被爲三聞御封

文ニ而被上進候

一、左の通白可ね老女迄

此度

大納言様御妾腹に

御女子御誕生阿そばし

御名

伊曾姫様と被進

御簾中様御養ニ遊候至極

御丈ぶに而御乳甘物もう上り

給ひ段々御肥立阿そばしいまた

表向御弘は不遊候へ共蓮性院様

先達而いらせまいらせ候節御子様方

御世話も遊候事ゆへこの段急度な

く私共より申上宣御申被成下給段

一、伊曾姫様江

御重

三

御にしめ
梅の雪
よふかん
まんちう

御内證御方

一、御貳所様より

右被下候

重

一組

み喜

一、大納言様より

白銀

貳枚

池上日脩

御簾中様より

志路かね

壺枚

一、御初穂

右ハ継目御礼差上物致につき被下候

百疋

綾小路
はじめ

梅その
はじめ

一、右之通り御上ル

一、伊曾姫様御こし湯召させまいらせ候に
付上ル

さつま

姥

一、産婦より

さかな

一折

同人

同断

代三百疋目録添

添姥

食路う

片し赤飯

重貳

代二百疋同断

一、右ハ枕直し日数ニ付御上ル

一、御荷物便り出ル

一位様江

御簾中様より

ぬかこ

一、右御上被遊候

一、西濱御殿へ通り物
御拝領の

御服 五ツ

干多い 五枚

弥助より差上度差出し候

右之通り

ぬかこ

一箱

御簾中様

御中臈

里勢

御包のうち

右被下候

九月十九日

一、御貳所様より

伊曾姫様へ

御重

貳

きぬたまき
うぐひす餅

右被進候

一、御貳所様江

千萬君様より折からの御機嫌御

一、一位様書入

うかがひ御文ニ而仰上まいらせ候

一、百人町老女より左の通

一、此度磯山義浜村と改名被

一、仰付候まゝ此段申上候段申来ル

一、定式御飛脚差致候

一、上々様御機嫌

一、左之通藤山初より

成候段申来ル

永見殿事當月五日

こなたへ参り候段申来ル

一、左之通永見より

おなる事表向宿中むら良太郎
方遠き続に付川端六左衛門と申
伯父方へ下宿致候度願候ニ付御
用人衆へ内談致候所此別紙の通
書面ニ而願即日御用人衆御聞濟
にて相濟給ひ且又御三之間子供
やら見性院及姫に付宿に被在候
筈ながら御用屋敷江差置申度願
候につき藤山様御初へ申上候ハバ早
速御聞濟遊候事成と存申上まいらせ
候処一應江戸表へ申出候上二而御
用屋敷へ参よろしくとの御事ニ御
座候此段藤山様御初より綾小路様
御初へ申参候事ながら私よりも右
申上候段申来ル

御三之間格

一、右の通り

當

御留守中宿元え下り候様之旨の
御儀ニ付厄介に相成たまひ候中
村良太郎義其続合も遠く御座候
に付実伯父川端六左衛門方へ下
り申度願奉候尤川端六左衛門儀
も當御留守中差置可中申聞儀ニ
御座候

右之通申出ル

一、大納言様江

九月廿日

御祓 三体 笠内出雲
右ハ差上候由御廣敷通り

一、御簾中様より

伊曾姫様へ 御籠の中 梅中鉢 かん

一、右被進候

御貳所様江 千萬君様より此度

御姫様御誕生阿そばし御名伊曾姫

様と御唱御簾中様御用ニ被遊候事

御伺遊右御歡かつ

伊曾姫様御機嫌をも御伺御丈二而

仰上まいらせ候

一、御貳所様より

當月につき

御初穂 貳百疋

外に 御重 紅白砂糖 善光寺 人

干飯 二袋

一、右は此程の御挨拶として御送被遊候

即刻御礼御文ニ而申上まいらせ候

善光寺 上人 仙壽院

一、伊曾姫様御符取出ル

一、左ノ通 白かね老女より

御誕生様被爲在右ニ付早速
御悦仰上給ひ御様子も御伺
被成筈之处此節
御本丸ニ而御差つかへ被爲有
候にて右御悦被仰候段御差
ひかへ阿そばし候につき御
達遊候段申来ル

一、御城御使
一、御貳所様より

伊曾姫様へ

右被進候

一、一位様より

峯壽院様折柄の御見舞峯文二而

御進まいらせ候

一、大納言様江

田安一位様より

生鯉一尺

右ハ御領地の二而御座候由御慰

にもと御封文二而被進候

一、枕直し旦今日出勤致候二付

大納言様江

御肴

御
目
録

御肴

赤強飯

御硯蓋物一面

御簾

御さかな一折

同断

御花活
一箱

御花臺

御酒
御俵物

御肴

赤強飯

御硯蓋物一面

右につき差上候

一、大納言様より

さかな
一折

金五拾五兩

外に

御包みの内 嶋ちりめん

御簾中様

さかなとして

三百足 覺書

御
ひ

同
人

に付被下候

一、伊曾姫様

御重
一組
み
き

一、右差上候
一位様より

さかなとして

三百疋 覺書

御内證御方より

御肴 一折 おもくろく

右ハ枕の内

御尋として被下物の御事若山より

申来ニ付こん日被下に取扱候

一、左の通百人町老女より

千万君様御忌明御清く成りまい

らせ候につき

御誕生様被爲有御歡仰上給ひ

旦御七夜御祝義仰上度右は御

使ニ而御上あそばしまいらせ候

御文にて御上遊候方御よろしきや

御誕生様被爲有御歡御七夜御

祝義御仰上御使ニ而も御ふみ

にても御一同に被仰候て御よ

ろしとや尚又御日限も幾日こ

の御上あそばしては宣戴と

問合申来ル御返事に

御め出度御一同に来ル廿八日御文ニ

而御上あそばし候 様にと申出ル

九月廿二日

一、當月に付圓滿寺秋葉へ
御参りを

御初穂 百疋 使番頭格
と 喜

御本尊へ 御初穂 銀子

愛染不動尊へ御組合ニ而

同断

右之通

一、御礼御供物上ル

一、左之通百人町老女より

左京大夫様御側の者今晚安産い

たし

御男子様御出産被成御丈婦ニ而

御甘物もよう上りまいらせ候御事

に御座候此段御内々御手前方迄

申上まいらせ候段申来ル

一、左京大夫様御初へ今晚

御男子様御誕生被爲有二付右御歡

旦右御丈の内へ

御貳所様へ申上候様仰付まいらせ候

趣も認メ出ル 綾小路 はじめ

梅その はじめ

はじめ

一、大納言様江 浄性院

御札 一臺 浄性院

一、伊曾姫様御符 浄性院

一、右當月につき差上候 御簾中様

一、伊曾姫様御符 御簾中様

一、左之通書附 御簾中様

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

御中臈
里せ

九月廿三日

一、大納言様より

峯壽院様江

御重 一組

右は其後の御機嫌被爲聞御慰にも

と御文ニ而被進候

御返事に

御様体益御続阿そばし御快被爲

入よ中も御靜によ御寢遊御目

覺遊ても御氣然も御よろしく御

膳等も御程よふ御手附させ給御

通しも益御増阿そばし

御惣躰いよく御宣不順の時か

らに

御座候得共冷氣の御障もふ爲有

儘御案事阿らせ給はざる様よろ

一、御簾中様より

伊曾姫様へ

しく申上様申来ル

磯辺焼

二 笹まき

一、市ヶ谷御祐筆より

津島

御札 六通

右之通相廻ル

九月廿四日

一、大納言様明廿五日紅葉山へ

御豫参遊され候に付御符旦御平日

御符取出ル

靈雲寺

佛性寺

覺樹王院

法明寺

一、例目之通御符取出ル

伊曾姫様御持取出ル

明廿五日

公方様五時御供揃ニ而紅葉山

御宮并

惣御靈屋方江

御参詣遊さる筈の旨手紙入ル

明廿五日神田祭礼ニ付半蔵御門田安

留る事候旨御城附より申越御心得

申進候旨手紙入ル

九月廿五日

一、大納言様六時御供揃ニ而紅葉山

御宮へ

御豫参詣され候

一、大納言様御後厄の九月につき

川崎大師へ御代参

大納言様より

一、白銀

臺枚

使番
壺人
御半下
壺人

御簾中様より右につき

初穂料

二百疋

外に

同

百疋

右之通

御札

二通

外に

同

一通

右之通差上候

一、例月之通御符取出ル

一、左之通書附出ル

淨性院
法住院
御半下
まかき

同人病氣に付き養生の御暇戴き先達

より下居種々藥用致候得共免角爾々

致不申急ニ全快極難斗と医師申候付

何卒御慈悲を以永之御暇戴度由奉願

候付願之通申附度候

波江

筒井牧

一、定式飛脚出ル

一、日光准后様御病氣ニ付御願之通御隱居

新宮様江御職被相統遊され候様仰出

事候依て之申進候旨手紙入ル

一、先月十八日

公方様吹上御庭へ被爲

成夫より

松栄院様御住居江

御立寄被遊ニ付右

御立寄相済給御歡

松栄院様江

御使頭役

御内々より御届之儀宣御取斗候様

右之通從

一、一位様御届被遊筈候間御内々より御

届之儀宣敷取斗あそばさる可旨手紙入ル

九月廿六日

一、日光准后様御不例ニ付爲御見廻今日

御出坊江参らる可候

入之处昨夜より御疔癩氣

在難被爲入候付右入代り爲御見廻

御使御年寄衆参らせ候事候此段御心

得申進候旨手紙入ル

一、大納言様江

おかり

御簾中様より右につき御見舞御文ニ
而仰進らせ候
一、右に付御機嫌伺候て

尾州様
前大納言様御国許へ申上度段申上候
裏 辻 初

一、大納言様江
御簾中様より

梨子
葡萄
一臺
かき

右ハ今日御表の者へ御つかいさせ
被遊候に付御上被遊候

一、一位様より

松栄院様へ先月十八日
公方様吹上御庭へ

成夫より御住居へ
御立寄遊候段御承知遊され
右の御歡奉文ニ而仰進らせ候

一、一位様江

松栄院様より右同様ニ付表向御使をも
て右の御歡仰進まいらせ候御挨拶奉文
ニ而御進候

一、大納言様

御貳所様江
蓮性院様より

鯛
一折

伊曾姫様へ

御ぶんこの内 板メ
御手遊び

交御肴 一折

右ハ大納言様御妾腹に

御姫様御誕生あそばし御名も

伊曾姫様と被進

御簾中様御養ニ被遊候段御

伺遊右之御悦仰上給ひ御奉封文ニて
御上遊まいらせ候

一、大納言様江

蓮性院様より 御上り箱の内

右ハ折柄の御機嫌お伺仰上給ひ御

慰にもと御封文にて御上遊し候

此程被進物阿そばれし御礼も被仰

上候

一、

伊曾姫様御符出ル

仙壽院

一、

荷物便り差致候

日光准后様御不例之所御大切され及

候旨住心院より申越御心得申進候旨

手紙入ル

日光准后様御不例之所今日夕方御大

切之段御登可相成やに相聞候弥御登

有之候ハバ右ハ

水戸様之

御簾中様ニハ御兄

鶴千代磨様ニハ御母方御伯父之御続

ニ被成御座候就夫文政十三年四月廿

二日兵部衛門様之

御簾中様御病氣御大切之節

尾州様之

御簾中様御姉被成御座候処右御大切

二付表向御届無御座候付

此度も表向よりハ大切に付而は御届

御取斗不申積ニ御座候其節御内々よ

り御届有無之儀御表ニハ何等留記相

見不申候右之節御大切ニ付

尾州様

御簾中様江御内より御届御座候や後

刻御大切之儀相知儀候ハバ可申進候

間右

子年

尾州様之

御簾中様江御届有無御調之上御届有

之可然候ハバ宣取計可相成依テ此段

申進置く

尚 又御内々より御届有候ハバ

御簾中様よりも御同様御届遊筈ニ候間

御申上之上宣敷御取斗可被成旨手紙入

ル

一、 松平陸奥守より家来切紙を以

陸奥守殿不快被在候ニ付 當参府被

致延引候処押而過ル十九日国許被致

発駕道中無滞候得共来ル廿八日被致

着府候段爲御知申来ル御心得申進候

九月廿七日

一、一位様より

伊曾姫様へ

御重

一、右被進候

大納言様江

伏見様より

御菓子

一箱

右ハ此度年頭御使御下し遊候御使

一、御三方様江

御卷数

御洗米

一、左之通書附出ル

右當月ニ付御文ニ而差上候

表使

佐山

同入宿養父本嶋覺平養子同苗卯兵

衛儀養父覺平病死後家家督被

仰付同人弟之続ニ相成候ニ付其節

御届申上可候処相紛御届ふ申上候

由奉恐入依此節御届申出ル

馬場牧

一、左之通書附出

平松 輔妻

御乳持

九月廿八日

御切米御扶持方並之通
下置れ候様

波江
月日

一、不時御飛脚出ル
馬場牧

一、出仕御座なく御登
ふ遊候

一、御成御使
野川

一、御貳所様江貳日御祝儀

百人町より御文ニ而仰上候

一位様御出入

一、御貳所様より

左京大夫様

千萬若様へ

交御肴
一折

右ハ折柄之御機嫌御伺且此程

御男子様御誕生あそばされ候御事

御内々被爲聞候ニ付右御機嫌をも

きかせ給御めで度御文ニ而被進候

一、即刻御札御文ニ而仰上まいらせ候

一、大納言様江

千萬君様より

鯛
一折
御目錄

御簾中様江

同断
一折

同断
伊曾姫様江
御肴
一折
同断

右ハ此度
御姫様御誕生あそばさし候につき

右御悦御上給御文ニ而御上遊候

一位様御書入御悦事

一、大納言様江

千萬若君様より

御肴
一折
御目錄

一位様江

同断
一折
同断代百疋

同断

御簾中様江

同断
一折

伊曾姫様江

千鯛
一箱
御目錄

右ハ此程御七夜御祝義整はせまいら

せ候につき右御歡仰上給ひ御文ニ而

御上仰あそばされ候

一、御簾中様より

伊曾姫様へ

御さか那
二折

右御到来合に付被進候

大納言様より

一、

白銀 三枚 覺書
御包の内 嶋縮緬 小谷 作 内

御簾中様より
御召
伊曾姫様よりエリ合ニ付
右ハ此程中より御方江上り居こん日
下り候につき被下候

一、
御貳所様江
御符 一包ツツ 仙壽院

一、
大納言様江
御符 本松寺

一、
右例月の通差上候
御荷物便り出ル

一位様江
御貳所様より 一箱

御簾中様より
糠饅頭

外に
ぬかこ 木箱入り

一、
大納言様より
さかなとして

三百疋 目録 安 藤

反物代り
七百疋 七

御簾中様より
さかなとして 三百疋 同断

ぶんこの内 嶋縮緬 袖留祝義

右ハ此程着帶 差上給物

御座候に付被遣候
御肴代 三百疋 綾小路
御半切 十臺 梅初

御肴代 十世紙七十枚 梅はじめ

右御同様につき御送り物御

一、
西濱御殿江廻り物
津島 御礼 三通

一、
定式御飛脚着致候
上々様御機嫌御成まいらせ候様申来ル

一位様より
御簾中様へ 貳通

御書 貳通

一、
右被進候
大納言様江

卷数 壹臺 本 寺
洗米 壺箱

右差上候由御廣敷廻り

九月廿九日

一、大納言様

御簾中様江

大の

本院

右差上候由御廣敷廻り

一、左之通書符出ル

若年寄格

梅井

同人妹先達而出生致候処其砌御届可

申上之候相紛れ御届申上ず候段奉恐

入候依而御届申上候段申出候

月日

波江

筒井牧

御半下

まかき

名代

ル 悵

病氣に付願之通永御暇

被下まいらせ候

申渡し

出房

千世野

一、右大將様御忌今日より被爲

解候様

公方様より被

仰進候旨御城附より申越候依而申進

候旨手紙入ル

一、當月十七日和歌

御神事相濟候御左右相進候付右爲御

祝義明朔日

大納言様

閏九月朔日

一位様江御供番頭以上御用人偈有之
筈御心得申進候旨手紙入ル

一、大納言様例刻御供揃ニ而御登城被遊

候

一、御城御使

なみ江

一、御貳所様江貳日御祝義

沢野

一、百人町より御文ニ而仰上まいらせ候

一位様御書入

一、御三方様江

越前守殿より貳日御祝義御文ニ而

仰上まいらせ候

一、伊曾姫様御三十三夜御祝義ニ付

御貳所様より

伊曾姫様江

御使

その沢

御肴

一おりつゞ

御目録

外に

生花臺

一面

御酒

一徳り

一位様より

御部屋様より

御壽し

一鉢

同断 御内證御方

右之通被還御上げ且差上給候

尤右御品々は来ル三日ニ被還御上
相成ル

一、御貳所様右ニ付

御酒

御吸物

御硯蓋物一面

右之通上ル右も三日ニ相成ル

一、伊曾姫様より右ニ付

山王

氷川

御庭三社へ

御代参

山王氷川へ

表使 茂尾

御初穂二百疋ツゝ ま記田

使番

御庭三社へ

同銀 二両ツツ

御半下 壺人

右之通尤雨天ニ付御庭三社への

御代参ハ御延ニ相成り来ル六日ニ

有之候

一、一位様江

越前守殿より

雲丹 一壺

右其折々の御機嫌御伺仰上度

一、御文ニ而ふ相替御上被成候

御洗米

佛性寺
妙傳寺

一、右之通御文ニ而差上候

御簾中様より

をさかなとして

佐武

貳百疋

才庵

覺書

伊曾姫様より

御包の内八丈嶋 一反

一、右は此御地出立ニ付下され候

時候爲御見舞明二日

伏見様御使近江介四時参上之筈

御心得申される旨手紙入ル

閏九月二日

一、大納言様江例月の通

理趣分

御礼 一臺

靈雲寺

一、右御文ニ而差上候

伊曾姫様御符取出ル

淨性院
法住寺

仙壽院

閏九月三日

一、大納言様江

峯壽院様より

御国許の

塩引鮭 五尺

右其折可らの御機嫌被爲聞

御封文ニ而下れ候

一、御簾中様より

伊曾姫様江

煎餅 一臺

輕焼

一、右被還候

百人町老女より右之通

御出生様御名

勇之進様と去ル廿八日附られ候

儘此度御内々申上候段申来ル

一、百人町老女より福島へ左之通

勇之進様御七夜御祝義

明後五日御整遊し候につき

此の段御めで度申上候何分宣

一、明四日 御頼申上候段申来ル

公方様五時御供揃ニ而

御成殿江

御参詣遊はさる筈之旨手紙入ル

閏九月四日

一、御城御使

一、左之通書附出ル

平松 傳 輔 書 多

御乳持

召出御切米御扶持方並之通下置

候様

月 日 その沢

酒井 井田

閏九月五日

一、例九月二付城内妙法寺へ

御代参

御簾中様より

御代参

大納言様より

御初穂

二百疋

御簾中様より

御初穂

百疋

右之通

御礼御洗米

一臺ヅツ

妙法寺

右之通差上候

大納言様御後厄之九月二付

御初穂 二百疋

同断

御代参の者持参致候

御礼御洗米 一臺ヅツ

表使

津山

使番

千世野

御半下

貳人

壺

人

一、右差上候
大納言様より
入道宮様江

一箱

右は此度年始御使として家司衆
下向致候御便りに付御機嫌被爲聞
遣者被爲有候に付右御挨拶として
御文ニ而下れ候ニ付清水御右筆間へ
御文ニテ相廻ス

一、大納言様より

左京大夫様

御貳所様へ

鯛

一折

一、御簾中様より

同断

右は御内々御七夜御祝義
御めで度下れ候尤御文江は御七
夜御祝義認入不申折から御文ニ
而下れ候右御文之内へ勇之進様
御様子をも被爲聞候

一、一位様より

左京大夫様

式部大輔様へ

八寸

一御煮

御重

一組

一御にしめ

三御菓子

四

一、右ふ相不替御文ニ而下れ候

一、御貳所様江

左京大夫様

御貳所様より右に付御札御文ニ而仰

一、上給候

一位様江

左京大夫様

式部大輔様より右の御札御文ニ而仰

一、上候

御三方様より

陸奥守殿

眞明院殿

栄心院殿へ

陸奥守殿此程此御地へ御着被成候段

一、一位様江

因幡殿より折からの御機嫌御伺御文

ニ而被仰れ候

定式飛脚出ル

閏九月六日

一、九月につき麴町御庭稻荷へ

御代参

御簾中様より

御代参

御三方様より

その沢

沢野

表使

千世野

御初穂
銀
壹両ヅツ
使番
貳番

御半下
一人

一、伊曾姫様より御序ニ付

御初穂

銀
壹両

右之通尤先月中は

御簾中様御服中に被爲有候ニ付

御庭三社へも今日の御序ニ

御代参下被有爲候得共右御初穂木

先月七日に留御座候ニ付此所へは

付申候

一、大納言様より

伊曾姫様江

八寸

御重

紅きんとん
一なるとかん
まんちう

右下れ候

一、一位様江

眞明院殿より

御詠草箱

一箱

御菓予
右は折柄の御機嫌御伺仰上候

御文ニ而御上げ被成候

一、御簾中様江

眞明院殿より

御菓予

一箱

塩あゆ
右御同様御機嫌御伺仰上給ひ御
文ニテ御上げ被成る

閏九月七日

一、大納言様

御簾中様江

御簾中様

鶴千代磨様より折からの御見舞

老女頼奉文ニテ被仰れ候

一、大納言様江

鶴千代磨様より

御国許の

薄塩鮭
貳尺

右は先達而御うちわ下れ候御挨拶

仰進給ひ奉文ニ而下れ候

一、御簾中様より

伊曾姫様へ

八寸

御重

阿つまかん
一紅まと
葛饅頭

右下れ候

一、御荷物便り着致候

御貳所様江

御部屋様より

塩松茸
一桶

右は御慰のもと御上げ遊し候

一、右之通 平松傳輔書 多つ

伊曾姫様御乳持被

召出御切米御扶持方並々之通

被下置候

銀 三枚 同人

此度

召出候付爲仕度銀被下候

中渡シ 千世野

出 席 その井

一、改名被下候 てつ事

一、右之通書附出ル 御簾中様

と 御三之間

同人父御領所元々御普請役高木

周藏義遠国へ罷出相勤候ニ付御

勘定評定所留役大伯父濟藤宗左

衛門ヲ是迄宿に致御座候処父周

藏此節此表へ罷皈り相勤候に付

右周藏方を宿ニ致度由奉願候

月 日 その沢

井田齋藤

閏九月八日

一、大納言様江

田安

一位様より

御庭の 黄菊 一籠

一、右御慰にもと御封文ニ而下れ候

御荷物便り出ル

御貳所様より

一位様へ 御菓子 一箱

右御上 遊候

一、西濱御殿へ廻り物

眞明院殿より御上

御詠草箱 一箱

御菓子 一箱

殿より

雲丹 一壺

右之通

明九日

一、公方様六時前御供揃ニ而西浜御庭へ

被爲 成旨手紙入ル

堀田備中守殿加判之列

一、御免溜詰之格被

御付候事 候依て申遣 旨手紙入ル

御庭へ二而

御二所様被爲 成候

大納言様へ

御簾中様より右ニ付

御煮染

御簾中様より

御煮染

御煮染

閏九月九日

御小重 二

御菓子 不[?]明[?]
桂もち

右之通御上げ被遊候

一、大納言様江御後役厄年九月二付

御簾中様より

山王両社

一臺ヅツ

御札守
同断ツツ

淨性院
円満寺
本壽院

刺田彦社

御祓

日前宮

御札守

栗林八幡宮

同断

同断ツツ

明見寺

吹上明王院

御誕生月二付

同断

右之通御祈禱被

仰附御上げ被遊候尤例九月御上

げ被遊候筈之処

御簾中様御服中二付今日御上被

遊候

一、大納言様より

水戸御簾中様江

千家御簞笥 一箱

峯壽院様江

御多は二盆 一箱

右は先達而御約束被遣候のにて

御出来二付今日御封文ニ而れ候尤

水戸御簾中様へ御遣も御守殿へ向

御文一通ニ而出ル

一、伊曾姫様御符取出ル

仙壽院

一、定式飛脚着致候

上々様方御機嫌よく被爲成候段申

来ル

一、藤山初より左之通

磯を可事深と改名被

仰付候段申来ル

閏九月十日

一、御城御使

御三方様より例月之通

御初穂

百五十疋

仙壽院

右御文ニ而出ル

一、大納言様より

御初穂 貳百疋

円満寺

右は追々寒サニ向候ニ付火防

御祈禱被

仰付候ニ付御火所へ張候御札

二十枚程差上候様申出ス

御札 一臺
張候 御札 二十枚 同寺

一、 明十一日 上使眞田信濃守殿被遣候筈ニ依て

申遣候旨手紙入ル

一、 右衛門督様御用人より切紙を以

公方様當月下旬御屋形江

御立寄可被遊候旨被

仰出候由爲御知申来候御心得申れ候

旨手紙入ル

一、 此度御誕生之

御姫様先月十一日御七夜御祝義御整

被遊

大納言様より御名下れ候由ニ付

伊曾姫様江

一位様より御祝義物下れ等之義未

表立

公辺御弘メ等も無之義ニ付表向何等

取計無之候得共御内々より下れ物等

之義宜敷御取計候様

一、 右ニ付

大納言様

御簾中様江

一位様より御祝義下れ給て可然候ハ

バ是又御取計候様こと存候依下れ候

旨手紙入ル

尚く右御七夜御祝義御整被遊

御名下れ候ニ付

大納言様

御簾中様

伊曾姫様へ

御部屋様より御祝義物御上等之義

表向何等御取計無之候得共御内々

より下れ等之義宜敷御取計可相成

候

一、 先月十日夜市ヶ谷出火御遠火之候

御別条無之由ニ付御歡御見廻旁

尾州様

御簾中様江

御内々より御届有之可然候ハバ宣

御取斗候様

一、 利姫様江も被 仰入て

右之通

一位様御届被遊筈ニ候間御内々御届

之義宣御取斗可相成尤表向より御届

ハ明日及御取斗筈之旨手紙入

阿部能登守殿より使者を以泰壽院殿

義不快之處去月上旬より時候ニ御障

り不食ニ付手医師藥服用致候処兎角

同扁ニ付松平大隅守殿医師河村宗膽

江被相見被致服藥多紀 眞院江も被

致轉藥候得共一躰高年之上数日之不

食ニ而草臥強昨夜より俄に痰咳強不

容易容躰之旨申来候御心得申れ候旨

手紙入

尚く右ニ不表向より御届無之御
内々より御届有之可然ハバ宣御取
斗可被成候

閏九月十一日

一、御城御使
なみ江

一、大納言様江

左京大夫様

式部大輔様より

御重 一組

右は折からの御機嫌御伺被仰上

御慰ニもと御文ニ而御上遊候

一、御簾中様より

伊曾姫様へ

御壽し 二重

右被遣候

一、御簾中殿より

眞明院殿へ

鯛 一おり

勝徳院殿へ

同断

右は折からの御機嫌被爲聞

御文ニ而被遣給候先達而御上

一の被成候ニ付御挨拶も認メ出ル

一、大納言様江

刺田彦御祓

御札守

岡本左馬助

松生院

御秘符

右之通差上候由御廣敷廻り

一、明十二日

一位様江

公方様より宿 奉出れ候御沙た二候

一、旨手紙入

阿部伊勢守殿今日可判之列

一、仰付候事候依之申遣旨手紙入

一、松栄院様今日五半時之御供揃ニ而爲

御年始西丸大奥江被入候旨御沙た書

へ認上候間御心得申れ候旨手紙入

閏九月十二日

一、大納言様江

尾州様

前大納言様より先月廿六日上野

御本坊へ可被爲

成之处 御疝癰氣ニ而御延引遊し候

段御国許ニ而御承知あそばし候ニ付

右御見舞奉文ニ而被仰れ候

一、大納言様来ル十五日御登

城被遊候ニ付御符旦平日御符取出ル

靈雲寺

佛性寺

一、例月の通

理趣分

御初穂

百疋

靈雲寺

一、右御文ニ而取出ル

御符

祐天寺

右御文ニ而差上候

閏九月十三日

一、大納言様江例月の通

御符

遠壽院

一、一位様江

同断

仙壽院

右御文ニ而差上候

一、例月御符取出ル

浄性院
法住院
岡本右京

一、水野越前守殿可判之列

御免前々之通 鷹之間 詰被

仰付候事候依て申れる旨手紙入

閏九月十四日

一、御荷物便り着致候

御貳所様江

御部屋様より

粕漬松茸 一桶ツツ

右不相替御上被遊候

一、例月御符取出ル

一、伊曾姫様御符取出ル

一、大納言様

覺樹王院

法明寺

御簾中様
御姫様江

御札守

一通ツツ

明見寺

大納言様

御簾中様江

御札守

一通ツツ

護国院

御秘符

一通ツツ

松生院

大屋太神

御祓

二

森太次郎

伊太祈曾

同断

二

御札

一通ツツ

羅漢寺

一、大納言様江

御札守

一通ツツ

吹上明王院

御簾中様江

護符

御札守

根来律葉院

右之通 差上候由御廣敷廻り

御札守

御簾中様

御三之間

右之通 書符出ル

一、右之通 書符出ル

御簾中様

とさ

無抛用事ニ付五夜泊御暇戴

明後十六日より下り申度由奉

願候

月日

その沢

井田馬場

當暑気

一、

峯壽院様御初より

此御方被進物之儀今度

御守殿御住居向共巖敷御省略之義公
儀より被仰出候由ニ而以來峯壽院様
御初より奉文斗ニ而御機嫌被爲聞候
由大奥江申参候段其節御申越候付御
此方より暑寒ニ表向より被遣物も御
止被遊積ニ夫々御附御用人及懸合候
段ハ其砌申され御承知之通候就夫
此御方も御承知之通巖敷御省略に付
大納言様より年頭進物之外端午重陽
歳暮右三季一種ツツ下れ候処巖敷御
省略中之訳を以以來御省略中ハ一種
ハ下れず御目録披露ニ相成候積二年
寄衆より御沙汰有之候付別紙通御附
御用人へ懸合候積ニ御座候

一位様

御簾中様より歳暮表向一種下れ之儀
端午之通及懸合筈に候付別紙懸合之
書面差れ候間御一覽之上御了簡有之
候ハバ御申越候様候致度候

然ば

峯壽院様江紀伊守殿より年中進まいらせ覽物
之儀端午重陽歳暮ニハ一種ツツ被致
其御方様よりも一種ツツ大奥より奉
文を以被遣候事御座候就夫當屋形之
儀は當時巖敷省畧中ニ而万端取糸下
申付候付右三季物之儀省略年限中

ハ御品は相廻し不申御目録御披露ニ
ハ相成申間敷哉左候得ハ

其御方様よりも御同様御品御廻無之
御目録披露之積大奥江申合候様可致
と存候右は全巖敷省略ニ申附候故を
以無扨御内々之及御御内合之間御了
簡之趣無御複藏被仰越候様致度候依
テ右御如此御座候已上

尚く右之義若

御方様御差支も無之御目録御披露
ニ相成候ハハ

一位殿并御簾中様よりも御歳暮ニ
ハ一種ツツ到れ候付是故本行同
様御目録御披露ニ相成候様致候此
儀も御含置可被下就夫御定候
ハ年頭には紀伊殿より黄金壹枚被
致

其御方様よりも御同様被遣右は御
同等之儀ニ候得ハ年頭之爲御取替
儀は先是迄之通大刺爲御取替之御
居可然仰越候様致度候得共猶
格御了簡も御座候ハバ被仰越候様
致度候尤一位殿ならび御簾中より
も年頭ニ一種ツツ

右は紀伊殿より年頭之物是迄之
りも年頭之儀ハ矢張一種ツツニ到
れニ而御座候此段も御定

置申候
右之通別紙寫ニ而各方何も御了簡無
候やと申参候ニ付右返事ニ何も了簡
等無之候段申出ス

閏九月十五日

一、大納言様例刻御供揃ニ而御登城被遊候
御城御使
その沢
梅尾

一、御貳所様江式日御祝義

百人町より御文ニ而仰上候

一、一位様御書入

御三方様江

越前守殿より式日御祝義御文にて仰上
候

一、御三方様江

左京大夫様より

御庭の

むべ

右不相替御文ニ而御上遊候

一、左之通

御中臈

るき

若年寄格被

仰付御切米御扶持方は迄

之通被下置

御次格

みや

一、

御次
仰付御切米御扶持方は迄
之通被下置候

呉服之間

せよ

御次被

仰付御切米御扶持方並之通

被下置候

呉服之格

く屋のり

呉服之間被

仰付御切米御扶持方並之通

被下候

御三之間

見を

呉服之間格

仰付年々金三両ツツ被下置候

申渡シ

茂尾

出

御三之間格

千世野

きふ

と屋

志毛

御三之間格被

仰付御切米御扶持方並之通

被下置候

申渡し

ます田茂尾

出席

一、

一、御貳所様江 千世野

御肴 一しゅづゝ

御目録代 五十疋ツツ

るき

右は結構被

仰付候に付御礼申上差上候

一、御貳所様より

をさかなとして

五十疋ツツ

同人

覺書

右被下候

一、左の通り書付出ル

四ツ谷坂町

越後屋

小兵衛娘

はつ

御半下

召抱御切米御扶持方並之通

被下候様

月日

その沢

井田齋藤

閏九月十六日

御簾中様

御三之間

と き

一、今日下ル

御簾中様より

右被下候

一、明後十八日

公方様

右大將五時御供揃ニ而駒場野へ被

成候筈尤

御往来共御屋敷前

通御被遊候筈之旨手紙入ル

閏九月十七日

一、御簾中様より

伊曾姫様へ

八寸

御重

一

梅の雪

花の本

よふかん

右被下遣候

一、伊曾姫様御符取出ル

仙壽院

閏九月十八日

一、御簾中様菊御花見ニ付

大納言様より右ニ付

樽かき 一臺

御部屋様より

同断

同断

綾小路

はじめ

一、 右之御通^{被遣}下れ御上げ旦差上候 婦く嶋

大納言様江
尾州様より

粕漬

御香の物一桶

右は折からの御見舞仰遣給
御封文ニ而下れ候

一、 御貳所様より

百人町

御に方様江

鯛

一折ツツ都合八折

右は

伊曾姫様御誕生被爲有候節

御歡被仰上御上げ物遊し候に付

右御挨拶として御文ニ而遣れ候

一、 御貳所様より

千万君様江

御肴

一折ツツ

御目録代二百疋ツツ

右は御七夜御祝義仰上給ひ

御上げ物遊し候に付御挨拶

として御文ニ而下れ候

一、 御簾中様より

伊曾姫様少々時候御中り遊し候に付

何の御障もふ被爲有御よろくと御

全快あそばします様と御祈禱を被仰

付候に付

御初穂 百疋 仙壽院
右之通申出ル御守御符等直ニ

一、 御簾中様より
伊曾姫様江

御守御符

一、 右之通下れ候
大納言様江

陸奥守殿より

紙布

千金海鼠

一臺 十反
一面
御目錄

一位様江

丹後嶋

御肴

右は此程御参府被成候ニ付御土

一、 大納言様江

産として御文ニ而御上げ被成候

法路寺殿より

青目籠柿

右は折柄の御機嫌御伺仰上給

御封文ニ而御上被成候

一、 御荷物便り出ル
御貳所様より

一位様江

長いも

五本

御簾中様より

外に

御小姓

ゆか

同人父大病ニ付看病十日の

御暇戴今日より下申度由奉

願候

月日

その沢

井田齋藤殿

一、取扱相済即刻下ル

御簾中様より右ニ付

さかなとして

貳百疋

覺書

ゆか

右被下候

閏九月廿日

一、御簾中様より

伊曾姫様へ

八寸

御重

一

きぬ多卷
栗饅頭

右下れ候

一、大納言様江

峯壽院様より

御料理 菊

右は御はたけの二而被遣御廻されあ

そはし候

一、大納言様明後廿二日不時御登

城被遊候に付御符旦

出御の節御符御平日御取出ル

靈雲寺

佛性寺

一、伊曾姫様少々時候ニ御中り遊バレ御

病氣ニ而御せき被爲入ニ付何の御障

もふ被爲有様態々御念上被成御符御

上ケ被成様申出ル

淨性院

仙壽院

一、忌

御免ニ而出勤致候

若年寄

ます田

一、明廿一日

公方様四時前御供揃ニ而吹上御庭

へ被成 成夫より

田安屋敷へ

御立寄被遊候筈依テ申され候旨

手紙入

閏九月二十一日

一、御簾中様六半時御供揃略御行列

ニテ築地御屋敷へ被爲

成候

御先発

梅その

御供

その沢

津山

若年寄 ますだ
中年寄 花川
御中臈 みつ
御小姓 そや
御本家
表使佐山
御簾中様
表使格御頭勤
勝野
御本家
表番頭格
と き
西御殿
御中居引まとい
さか木
御半下
八人
御先 綾小路
沢野
若年寄 三しま
同格 むら田

御留記
御中臈 な代
御前詰 へつ
御簾中様
中年寄 かめ井
御中臈 里の
と和
御本家
表使
まき田
同格御右筆勤
御簾中様
表使 千世野
御右筆
きを
御次 ふき
御本家
呉服之間格
なつ
御簾中様
呉服之間

御半下 御使番 御本家 西使番 御明殿 御使番 御本家 御末頭 御もつ 御簾中 御三之 御本家 御次御

二 小 八 西 明 使 本 末 も 三 三 本 次
人 いと 重 殿 番 家 頭 っ 様 之 家 御
人 と 梅 石 番 家 格 な 間 や 間 つ ま
き

御三の間
てよ

呉服の間
のえ

御次
かつ

閏九月廿一日

一、大納言様五時御供揃ニ而不時御登

城候被遊候

公方様より

大納言様江

御袴地 一箱五卷

鉢詰御肴

外に 御置物卓 一箱

御鳥并御鉢植類

一、右大將様より飛鳥井殿を以御能の

上位ニ而

御文庫の内御煙草入廿五

鉢詰御肴

御刀掛 一箱

一位様より

御文庫の内御帶地五筋

鉢詰御魚

大鑑御硯 一箱

御料紙硯 一箱

御土産にもと

御提重 一組

精姫君様より

御文庫の内より

御煙草入無地うら入廿五

鉢詰御肴

一、右之通御拝領御戴旦被遣候

公方様より

一位様へ御能の

上意ニ而 御火鉢 一箱

御簾中様江も御能之

上意ニ而 御煙草盆 一箱

伊曾姫様へ 御人形 一箱

一、一位様より

一位様江御能之

仰ニ而 御袴地 一箱

御簾中様江も御能之

仰ニ而 御文庫之内御帶地

伊曾姫様へ 御ぶんこの内板へ縮緬一反

右之通御拝領御戴被遊候

御簾中様より

大納言様江 御盃 一箱

鉢詰御肴

右は御封文ニ而御戴被遊候

御簾中様江百人町より

御簾後の御機嫌御伺御文ニ而被仰上候

御簾中様江百人町より

御簾中様江百人町より

御簾中様江百人町より

御簾中様江百人町より

御簾中様江百人町より

御簾中様江百人町より

御簾中様江百人町より

爲給候付右御文ニ而仰上候
一、御簾中様より
請姫様江

作花
御取臺 一ツ
右は昨日築地御屋敷ニ而上り候
に付

一、於脩殿江
思召ニ而御封文ニ而被下候

御蒸菓子一重
右は昨日築地御屋敷へ被爲
成候ニ付御みやに

一、請姫様
思召ニ而御文ニ而給せられ候
於儕殿より即刻御札御文ニ而れ仰上候

閏九月廿三日

一、御城御使
綾小路
杉浦
一、左之通書符出ル

同人勝れ不申候に付何卒中嶋
玄順部屋通ニ而診脈受け申度
由願奉候

月日
その沢

一、大納言様
井田齋藤

御簾中様江
御札 一臺
遠州秋葉寺
右差上候由御広敷廻り

閏九月廿四日

一、御荷物便り着致候

御貳所様江
一位様より
塩漬松茸 一桶ヅヅ
粕漬松茸 一桶ヅヅ

御菓子 一箱ヲ
御部屋様より
塩漬松茸 一桶ヲ

右之通被遣旦御上ゲ遊し候
一、御三方様

御札守護 一臺ヅツ
右は住職継目ニ付御祈禱申上御文
ニ而差上候

一、例月御符取出ル
覺樹王院

閏九月廿五日

一、定式飛脚出ル

一位様江
御簾中様より
煮つけ栗

一、右は奥認メ御文ニ而御上げ被遊候
例月御符取出ル

一、伊曾姫様御符取出ル
仙壽院
法住院
淨性院

閏九月廿六日

一、大納言様

御簾中様より

御重 二

御貰さかな

御菓子 かさき巻
田子の浦かん

右は今日

御鷹之ニ而被爲成ニ付御上ゲ被遊候

一、大納言様江

芋 一かこ

法明寺

右は不相替差上候

一、例月の通

御符

本松寺

右御文ニ而差上候

一、

四ッ谷坂町
越後屋

小兵衛娘

はつ

御半下召抱御切米御扶持方

並之通被下置候

申渡し

ます田

出席

戸無瀬

一、右改名致させ

はつ事

紅葉

閏九月廿七日

一、御城御使

なみ江

一、御貳所様より

伊曾姫様江御神

生花臺 一面づゝ

御酒 一徳り

右之通下れ候

一、御貳所様江右ニ付

御酒

御吸物

御肴 一しゆ

御さしみ 一鉢

右之通上ル

一、御簾中様より

伊曾姫様江

御重 二 御すし
絹た巻

右被遣候

一、大納言様より

淡路守殿へ

交御肴 一おり

右は度々御上げ物被成候につき

御封文にまいらせ候

一、御貳所様江月例の通

御符

右御文ニ而差上候

仙壽院

閏九月廿八日

一、出仕御座なく御登

城不被遊候

一、御城御使

野川
梅尾

一、御貳所様江式日御祝義

百人町より御文ニ而被仰上候

一位様御書入

一、御表菊御花見二付

大納言様江

御簾中様より

樽かき 一臺

同 一臺

綾小路

はじめ

ふく嶋

梅その

はじめ

一、右御上ゲ旦差上候

御貳所様より

蓮性院様へ

和歌の浦松 御小提重 一組

御菓子入

鯛 一折

右は御誕生有らせ給候ニ付御歡仰

上給ひ御上げ物有し候ニ付御挨拶

を給ひ御封入被遣にて候

一、御長持便り出ル

御貳所様より

一位様江

甘露梅

一蓋物

御部屋様江

有へい入

煎餅

一箱

御内緒御方

唐輕焼 一箱

一、右之通御上給ひ被遣候

御簾中様江より築地御屋敷へ被爲成

候節上れ候

御品々

御部屋様御内證御方へも

御品々

右は御土産として御上げまいらせら

れ候

一、大納言様より

一位様江

御帶地

御袴地

二筋 一折

右ハ五日出ニ

御書ニ而御上ゲ被遊のニ而今日出

一、御貳所様より

をさかなとして

五百疋ヅツ

伊曾姫様より

覺目録

れ候旨手紙入

十月朔日

一、大納言様例刻御供揃ニ而御登

一、城被遊候

一、御城御使

一、御貳所様江貳日御祝義

百人町より御文ニ而仰上まいらせ候

一位様御書入

一、御三方様江

越前守殿より御同様御祝義御文にて

祝仰上候

一、御簾中様より

伊曾姫様江

御重

右被進候 一御すし

一、大納言様江

御洗米

一包ツツ 佛性寺

妙伝寺

右例月之通差上候

一、左之通書附出ル

御簾中様 御三之間子供

すま

無抛用事ニ付三夜泊りの暇戴明後

三日より下り申度由奉願候

月日 茂尾

馬場齋藤

十月二日

一、大納言様江

水戸様より

薄塩鮭 三尺

はら子 一樽

右御書ニテ被進候

一、大納言様江

理趣分

御札守 一臺

右例月之通差上候

一、左之通書附出ル

御半下 紅葉

同人勝れ不申候ニ付養生の御暇戴

只今より下り申度由奉願候

月日 表使

一、取扱相済即刻下ル

御半下 紅葉

一、今日下ル

御簾中様

御三之間子供

すま

十月四日

一、御城御使

茂尾

一、一位様より

伊曾姫様江

御重 一 いのかん
志ぼりさん
山吹まんじゅう

右被進候

一、伊曾姫様御符取出ル

仙壽院
淨性院

一、御荷物便り着致候

一位様より

御貳所様へ

琥珀糖 一箱

右ハ御到来遊候ニ付御慰にもと

せ進候

一、左之通書附 出ル 表使本ヶ井

同人甥堀内彦太郎儀此度出

奔致候段恐入り奉り候右ニ

付不及差扣候度旨申出候

月 日 茂尾

一、病気快今日上ル

御三之間
茂代

十月五日

一、大納言様江

淡路守殿より今日御登

城被成候処御相違なく御家督被仰出

候に付右御吹聴御文にて仰まいらせ候

一、御貳所様江

請姫様より

柿 一臺
御肴 一鉢

右は折からの御機嫌御伺仰上給
御慰にもと御上被成度物阿らせ

まいらせ候御礼も仰上まいらせ候

一、定式飛脚出ル

大納言様より

一位様江

一、無抛用事ニ付定式日数の御暇戴今日

下ル

一、松平駿河守手下総守 被致改名候事
使蕃青柳

依て申進候旨手紙入ル

十月六日

一、大納言様より

淡路守殿へ 御簾中様御書入

鯛 一折 御目錄

右ハ昨日

淡路守殿御登

城被成候所相違なく御家督被仰出ニ

付右御悦として御文にて進せ候

左京太夫様へ

一、鴨 一羽

右ハ御庭ニ而御擧のにて御文ニ而

上進候

一、御簾中様より

溶姫様江

多い 一折

御籠の内 かき

右ハ

加賀守殿御留守中ニ付御見廻

仰進給御文ニ而被進候

一、勝徳院殿へ

粕漬松茸 一重

かぶら

右ハ折からの御機嫌被爲聞御文ニ而此程御上物被成候も認メ出る

一、勝徳院殿より即刻御札御文ニ而仰上候

一、大納言様江

左京大夫様

千万君様より

鯛 一折

一、御簾中様江

同断 一折

右ハ此程折からの御機嫌被爲聞被進物あらせ参せ候に付右御札被仰上御文ニ而御上あそばし候

一、大納言様江百人町より昨日阿波守殿

願之通隠居被仰付

淡路守殿へ御家督無滞被

仰出ニ付右御歡御文ニ而仰上まいらせ候

一、今日上ル

御簾中様

御三之間子供

一、松平阿波守殿病氣ニ付願之通隠居被仰付家督無相違同姓淡路守殿へ被下

置候由に付

御使

松平阿波守殿

同 淡路守殿

御内より御届有之候可然候ハバ宣御取計候様

右之通御届被遊筈候間御内々より御届有之

宣御取計 旨手紙入ル

十月七日

一、大納言様江

左京大夫様より昨日上進物あらせまいらせ候に付右御札御文にて被仰上候

一、御簾中様江

於齋殿より

御籠の内 おこし

御重 一

右ハ折からの御機嫌御伺仰上給御文にて御上被成候

一、左之通書附出ル

呉服之間

尾の

御三之間子供

てよ

無抛用事ニ付五夜泊り御暇戴

明後九日より下り申度由奉被候

馬場 月 日 茂 尾

十月八日

一、大納言様江

淡路守殿より淡路守殿御事

阿波守殿と御改名被成度段御願

被成候処御願之通被仰出

一、候段御吹聴御文ニ而仰上まいらせ候

一、大納言様より右につき

阿波守殿へ御悦御文ニ而仰

一、御簾中様御出入

御荷物便り出ル

御簾中様より

五百疋ツツ 花井

覺書 梅沢

五百疋同断 むら井

中年寄

六百疋ツツ 貳人

濱田

御中臆頭

壺人

三百疋ツツ 表使

壺人

杓尾

三百疋ツツ 右御筆

貳人

使番

百 疋ツツ 貳 人

一、御簾中様より

右之通此度の御儀ニ付被下ル

八丈嶋 一反ツツ 濱田

右ハ是迄御用の御品取扱候ニ付

御内之奥認メニテ上下候

一、左之通書附出ル 使ばん 青柳

同人無抛用事ニ付定式日数の

御暇戴此程より下り居明九日

上り候筈の処勝れ不申上り兼

候ニ付何卒

御慈悲を以其儘宿に罷有養生

致快相成次第上り申度由奉願

候 月 日 表 使

一、明九日

公方様六時前御供揃ニ而濱御庭へ

被成候旨手紙入ル

十月九日

一、御城御使 波江

一、一位様より

千万君様へ

御肴 一折

御目錄代二百疋

右ハ

伊曾姫様御七夜御祝儀ニ付御上納
あそばし候に付右御挨拶として御
文ニ而被進候

一、 千万君様より御札御文ニ而被仰上候
一、 大納言様江

阿波守殿より
鯛

一折
御目錄

右ハ此本と御家督御相違無罷
仰出ニ付右御歡として御上納あそ
ばせしに付御札として御上被成候

一、 大納言様より
重
一きぬたまき
杵
浦

一、 右被下候
一、 定式飛脚着致候

一、 上々様方御機嫌成
今日下ル

段申来る

呉服之間

屋の

御三之間

てよ

一、 御簾中様より
御包のうち

屋の

一、 右被下候
大納言様江

伊太祈曾

壺

吹上

明王院

御札守
護符

一、 御簾中様江

伊太祈曾

御祓
壺

右差上候由廣敷廻り

十月十日

一、 御城御使
一、 御三方様より

放生會

御初穂

百五十疋

仙壽院

右例月之通渡被遊候

一、 左之通書附出ル

小普請組

宝賀山城守支配

坂部源五右衛門娘

利宇

御三之間格

御切米御扶持方並之通

下置様

月日

茂尾

筒井馬場殿

一、 左之通書附出ル

山内遠江守殿家来

谷川忠左衛門妹

御三之間格被

召抱御切米御扶持方並之通

被下置候様

月 日

筒井馬場

茂尾

一、今日忌

御免ニ而出勤致候

御簾中松^マ様
御小姓

一、當月九月廿五日御職務御相統之儀被

仰出ニ付来ル廿一日

一、日光御門跡様
御使頭役

日光御門跡様
御^マ御^イ

一、右ニ付爲御^マ御^イ
同大寄合

日光御門跡様
二種一荷

御目錄

一、右ニ付

公儀江御礼被成濟候上

一、日光御門主様
御使

一、右ニ付

有栖川宮

御使
京御屋敷奉行

上宮

右之通從
一位様御届被遊筈可御心得申進候旨

手紙入ル

十月十一日

一、大納言様御誕生日御祝こん日被成有

候に付

御簾中様より

御硯蓋物

御酒
一徳り

一、御簾中様御誕生日ニ付

御肴
一折
御目錄

一、御簾中様御誕生日ニ付

大納言様
御肴
一折
御使

一、御簾中様御誕生日ニ付

御硯蓋物
御目錄

一、一位様より
一徳り

御酒
一徳り

一、一位様より
一折
御使

御肴
同断

御部屋様より
一折

御肴
御目錄代二百疋

一、御貳所様御誕生日ニ付

一位様より
御目錄代二百疋

生花臺
一面

御肴
一徳り

御部屋様より
一面

御硯蓋物
一徳り

御酒
一徳り

御硯物
御内證御方

一、右之通^不物^明
御内證御方

一、御壽司
綾小路
はじめ

一、御壽司
一鉢

一、
吹すし

一
鉢

本 成 か 久 鈴 久 ゑ な み 久 る 戸 藤 む 岡 や こ 梅 遠 三 岡 ま 駒 宝 梅 石 ふ
川 見 井 尾 鹿 野 つ よ き 村 き 瀬 尾 田 山 の と 井 井 ま 多 田 野 田 は じ め の 井 嶋
め め

一、
三河守殿へ
大納言様より
召上り候に付被下候
右今日被成
金
一、
大納言様より
右之通
御すし
一鉢
三両ツツ

ま お 三 勝 葉 千 永 増 瀧 沢 ま 本 佐 そ と 里 み と 瀧 里 福 尻
や 茂 津 野 山 野 世 田 尾 野 多 田 井 山 か や は せ さ う 井 の 山 尾

御袴地 一臺二折

唐紙 二、

鉢詰御肴 一鉢

右ハ先達而御額字御所望被遊候に
付急度なく御挨拶として御封文ニ
而被進候

一、御簾中様より

水戸御簾中様へ

蜜柑 一籠

鉢詰御肴 一鉢

右ハ御留守中御機嫌被爲聞御慰に
もと御封文に而被上進候

一、大納言様江

末姫様より

御鳥

右ハ折柄の御見舞仰進給御到来
阿そばされ候由御慰にもと御封文
に而被上進候

一、笠部大輔殿より

鯛 一折

右ハ折からの御機嫌御伺仰上給
御慰にもと御封文ニ而御上被成候

一、松栄院様今日五時半御供揃ニ而爲御
年始御本丸大奥へ被成

入候旨御城符より申越依て申進候旨
手紙入ル

十月十二日

一、公方様より玄猪の御祝義とし

御簾中様江

御のし餅 一折

鳥の子餅 二居御目錄

御のし 一折

右の通奉文を以て御拝領被遊候

一、御城御使 梅尾

一、御貳所様江玄猪の御祝義

百人町より御文にて仰上まいらせ候

一、一位様御書入

御簾中様より

左京大夫様御初へ

御ちん

右は御拝領被遊候に付御取分と
して御文ニ而被遊候

一、左京大夫様初より御札御文ニ而仰上候

一、玄猪の御祝義被爲有

御貳所様御手 賃被下候

綾小路

はじめ

梅その

はじめ

呉服之間

格迄

右御祝の御賃

一、	右御手歌賃として下候	石井	御三之間
一位様			御末頭
御簾中様江玄猪の御祝義御文に而			丈番頭
申上候	むら岡		御中居
	かね		丈番介
一、	大納言様来ル十四日増上寺江		火の番
御豫参同十五日御登			御半下
城且御平日之御不取出ル			子供迄
			同断
			御末頭二而
			表使に而
			同断
			老女二而
理趣分			
御初穂	百疋		
右例月之通御渡被遊候			
一、	御三方様江	祐天寺	
御符			
例月之通差上候			
一、	左之通麴町老女より		
むら岡今日より忌明清く成候に			

十月十三日

一、	つき是より御文等名前書加候段	
申来ル		
一、	玄猪御祝義相濟候祝義旦	
御長座被遊候付爲御機嫌伺明日十三日		
御供番頭已上御用人偈有之筈二付御心		
得申進候旨手紙入ル		
一、	御城御使	岡沢
大納言様より		
峯壽院様江		
□の□	七把	
右ハ勢州種ニ而御庭ニ而御作らせ		
被遊に付御慰にもと被進ニ御廻さ		
せ被遣候		
一、	大納言様江	
峯壽院様より		
御側筆筭	一箱	内色々入
多い	一折	
御簾中様へ御書入二而		
御ぶんこの内	御さつき	
御毛うへ		
交御肴	一折	
右ハ此程御様躰阿らせられいらせ候節		
御見舞仰進給被進物被爲有候		
につき右御挨拶として御封文二而		
被進候		
一、	大納言様より右御挨拶御封文にて仰	

進まいらせまいらせ候

御簾中様御書入

一、大納言様江

御符

遠壽院

右月例之通差上候

一、月例之通御符取出ル

浄性院

岡本右京

一、伊曾姫様御符取出ル

浄性院

一、病氣全快今日上ル

使番青柳

十月十四日

一、御城御使

茂尾

一、大納言様江

尾張御簾中様よりこん日増上寺へ

御豫参可被遊候処御延引被遊候事

被爲聞右御見舞御文ニ而仰進給候

一、右ニ付御機嫌伺候て

尾州様

前大納言様御国許へ申上度段申上候

裏辻

はじめ

一、峯壽院様より御同様御見舞奉文ニ而

仰進まいらせ候

一、右に付御機嫌伺候て

水戸様御国許へ申上度段申上候

花の井
はじめ

仙壽院

一、御三方様江

右ハ會式相濟候に付差上候

一、一位様江

御符

仙壽院

一、右月例之通差上候

一、月例之通御符取出ル

一、伊曾姫様御符取出ル

覺樹王院
法明院

御簾中様江

御礼守

一通ツツ

小鳥居

右差上候由御廣敷廻り

一、御荷物便り着致候

一位様より

御簾中様江

不うれい

右ハ御庭に而出来候に付何ぞの

御用にもと被進候

一、今日上ル

呉服之間

屋の

御三之間子供

てよ

十月十五日

一、大納言様例刻御供揃に而御登

一、城被遊候

一、御城御使

綾小路
梅その

一、御貳所様江貳日御祝義

一、百人町より御文ニ而仰上候

一、一位様御書入

一、御三方様江

越前守殿より御同様御祝義御文に而

仰上候

一、大納言様江百人町より昨夜中今朝之

一、御機嫌御伺御文ニ而仰上まいらせ候

一、大納言様江

御供物 一箱 妙傳寺

一、右ハ會式相濟候に付差上候

一、定式飛脚出ル

御簾中様

御部屋様へ

御肴 一折

御目錄代式百疋

右ハ御誕生日ニ付御上物あそばし候

につき御文ニ而被進候

十月十六日

一、祐天寺地藏尊

御請渡被遊候

御貳所様より

十月十七日

御初穂 貳百疋

伊曾姫様より 同断 貳百疋

右之通御渡被遊候

一、御城御使

一、御貳所様江

御供物 一箱 ツツ

池上 波江

右ハ會式相濟候に付差上候

日 修

十月十八日

一、御荷物便り出ル

一位様江

御貳所様より

中月 一箱

右御上被遊候

一、御簾中様より

御菓子 一箱

せんべい 一ツ ツツ

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

花井 梅井 花井

十月十九日

一、 認メ御文ニ而被下尤御菓子ハ浜
田へも取分候様申出ル
明十九日
右大將様六半時御供揃ニ而亀筋
へ被爲 成旨手紙入ル

一、 大納言様江

蓮性院様より

御鉢うへ一ツ

御籠のうちする免

御簾中様江

御鉢うへ二ツ

御籠の内干ゑひ

右ハ折からの御機嫌御伺仰上給

御慰にもと封文ニ而御上遊候

一、 大納言様江

幕の内 五十人前

御内證御方

御簾中様江

御重一組 羽二重餅

御すし 一鉢

右ハ福山結構被 仰付ニ付御札

として差上まいらせ候

一、 定式飛脚着致候

上々様方御機嫌よく成らせまいらせ

候段申来ル

一、 ほりの内

妙法寺より

雑ヶ谷

鬼子母神へ

若年寄格

梅井

こ と

むら 田

御中

み 喜

御錠口 廉

御次

み や

御中屋

三 津 木

使 ば ん

一 年

御 半 下

二 人

右之通下れ候

十月廿日

一、 御城御使

一、 大納言様江

水戸様より去ル十四日増上寺へ

御豫参可被遊候処御疝積氣にて御延

引れ被遊候御事被爲聞右御見廻奉文

ニ而被仰進候

野 川

御簾中様御書入

十月廿一日

一、大納言様より

峯壽院様江

御鉢盛 一鉢

右ハ此ほど御床揚御祝義被爲有
御様体中御機嫌被爲聞被進物候
御挨拶として進□物あらせまいらせ
候に付急度なく御封文に而被進候

一、左之通書符出ル

表使

佐山

同人養父出嶋覺兵衛儀先申
実方見町医師飯田元朔娘を
養女に致し卯兵衛儀賀養
子被

仰付候に付妹之続ニ相成候間

其節御届け可申上候処相

紛れ御届不申上奉恐入候依而

此節御届申上候段申出候

月日 茂尾

弓場齋藤

十月廿二日

一、御庭へ二而

御貳所様被爲 成候

一、一位様より

伊曾姫様へ

御重

右被進候

一 饅頭

十月廿三日

一、大納言様江

笠部大輔殿より御遠火に付御機嫌御
伺御文ニ而被仰上候
一、伊曾姫様御符取出ル 仙壽院
一、仙壽院より大野入院の義に付御文ニ
而願之趣申来ル

十月廿四日

一、大納言様江

靄千代磨様より

眞鴨 一羽

右ハ小梅屋敷ニ而昨日羽合あそばし
候由ニ而御封文ニ而被進候

一、御貳所様江百人町より此夜ハ御遠辺

出火ニつき御機嫌御伺御文ニ而被仰

上候

一、百人町花岡・高山より左之通

左京大夫様御側懷胎いたし来ル
十二月臨月に御座候儘 屋やり

此度も

勇之進様御ふり合にあそばし候儘

此段御内々御申 方迄申上候

段自筆ニ而申来ル

津山

御城御用相勤可申旨被

仰出候

源右衛門

申渡し

大記

茂尾

葉山

覺樹王院

一、
例月之通御符取出ル

一、
明廿五日
公方様六時に御供揃に而濱御庭へ
被爲成候旨手紙入ル

十月廿五日

一、
大納言様江

笠部大輔より

鴨

二羽

右ハ高田下屋敷ニ而御羽合被成

由御慰にもと御封文ニ而御上被成候

一、

御簾中様御局被

仰付候

右大奥於御廣座敷申渡し

一、

御城江之御使相勤候に付年々

金貳拾兩被下置候

右大奥於廣座敷申渡し

申渡し
出席

三井源十郎
弓場源右衛門
齊藤平兵衛
茂尾
末記田

一、
大納言様江

御肴

一しゆ

御目録代百疋

御簾中様江

同断

同

津ぼね

伊曾姫様江

同断

同

右ハ結構被

仰付候御礼申上差上候

一、
御貳所様より

さかなとして

貳百疋ツツ

覺書

津ぼね

伊曾姫様より

同断

百五十疋

同

右につき下れ候

一、
定式飛脚出ル

一位様江

御肴

一しゆ

御目録代百疋

一、
御部屋様江

御肴

一しゆ

御目録代百疋
津ぼね

御内緒御方へ

同断 一折

同断

右ハ結構被

仰付候ニ付御礼申上差上かつ上申候

一、 例月之通御符取出ル 淨性院 法住院

一、 寒入半明之節之

御簾中様より

各御作略

一、 寒氣之節

大納言様

御簾中様より

同断

御部屋様江

右之通御機嫌御伺且御様子被爲聞答

ニ小間仰之通宣御取計被成旨手紙入ル

十月廿六日

一、 御城御使

御簾中様御年わすれ態と御慰事に 茂尾

仰付候

大納言様より

御簾中様江右につき

御重 三 御にしめ 御菓子

御部屋様より

御重 貳

同断 一 御すし 御内緒御方
御重 二 饅頭 綾小路

はじめ

ふく嶋

光院

梅その

はじめ

同断

一 眞砂餅

同断

二 御すし 御餅菓子 若年寄

はじめ

表使

増尾

中年寄

はじめ

表使

格迄

同断

二

右之通被進御上ヶ且差上候

一、 大納言様江

峯壽院様より此日傳通院へ中年寄

織山御参 二而参候所御機嫌被爲

聞候付き右御挨拶御封文ニ而仰進

まいらせ候

一、 御貳所様江

御盛物 一箱 妙法寺

右ハ會式相濟候由ニ而差上候

一、 一位様江

寒中御頂戴之

御符

一包

円満寺

右例年之通差上候

一、荷物便り着致候

一、左之通書附出ル

使番千と勢

同人勝れ不申候につき何卒養生の御

暇戴明廿七日より下申度由奉願候

月日茂尾

十月廿七日

一、公方様より御伽坊主長順を以格別之

恩召を以段々懇之

上意ニ而

大納言様江

御養之

鴨

三羽

猶又時候

御尋として

御塗重

一組

上意有

なし御之

一、一位様より同人を以御なり御之

仰ニ而

御貳所様江

御小重

一組ヲ

右之通御拝領御戴被遊候

一、御城御使波江

一、大納言様より

末姫様江

御すし一鉢

右ハ折からの御見舞仰進給

一、御慰にもと御封文ニ而被進候

一、左の通百人町老女より

濱むら茂眼病氣ニ而御使相勤

かね恐入候得共御免之儀相願候

所御免被成候ニ付てハ

左京大夫様御用も兼相勤候事

千君様御用も兼相勤候事御出

ゆえ御使には出しか渡被成ても御宣哉御手まへ

段申上候儘御取扱の御事御願

申上候段申来ル

御返事御勝手次第第二御出し

一、御貳所様江

御符

仙壽院

右例月之通差上候

使ばん

一、左之通書附出ル千とせ

同人勝れ不申候ニ付養生の御

暇戴度昨日奉願候処大きに

快方相成候付下り付申候而

養生致度由奉願候表使

月日御半下

一、左之通書附出ル紅葉

同人病氣ニ付養生の御暇戴先

達より下り居種々薬用等致候

得共兎角致不申医師も急々

快全の程難斗と申候付何卒

御慈悲を以永々御暇戴度
奉願候ニ付願之通申附度候
月日
茂尾
弓場牧

十月廿八日

一、御城御使

岡沢
津山

一、御貳所様江貳日御祝義

百人町より封文ニ而仰上まいらせ候

一位様御書入

一、御貳所様より

伊曾姫様へ

御すし
御重二 おきのいしかん
青柳まき
黄おぼろまんちう

一、右破進候

御貳所様江

御供物 一箱づゝ
本松寺

一、右ハ會式相濟ニ付差上候

大納言様江

御洗米
本松寺

一、右例月之通差上候

大納言様来ル朔日御登

城且御平日御符取出ル

靈雲寺
佛性寺

一、御貳所様江

御肴

一しゆづゝ
御目錄代百五十足ツゝ
石川與次右衛門

御簾中様江

御肴

一しゆ
御目錄代百五十足

高橋

五助

右ハ此度結構被

仰付候ニ付右御礼申上差上候

一、定式飛脚着致候

上々様方御機嫌よく成らせまいらせし

候段申来ル

一位様より

大納言様江

御書

一、右進まいらせ候

御荷物便り出ル

一位様江

御簾中様より

自然薯

右奥認メ御文ニ而御上被遊候

一、左之通御守殿御住居仙臺白かねへ

此度沢野事

御簾中様おつぼ子ニ被

仰付候津山事件ケ間ニ仰付候に

つき
虫喰い
□□此段御手まへ

近申上候

一、段申出ル
左之通百人町よりへ

此度沢野事

御簾中様おつぼねニ被

仰付候段申来ル

一、大納言様

御簾中様江

伊太祈曾

御祓 貳ツ

右差上候由御廣敷廻り

一、大納言様より

一位様江

御養之

鴨 ☐ 虫食い ☐ 不明 一羽

右ハ ☐ 虫食い ☐ 不明 被遊候ニ付御取分

として御文ニ而上ゲ遊候尤今日御

表より出ル

十月廿九日

一、大納言様江

尾州様

前大納言様より去ル十四日増上寺へ

御豫参被遊候之御疝積氣に付御

延引被遣候御事尾州様了知

あそばし右御見舞奉文ニ而仰進

まいらせ候

一、御簾中様

智恩院宮様江 ☐ 虫食い ☐ 不明

御重 一組

右被進候ニに付鑑蓮社迄杓

梅尾名前ニ而相廻ル

一、細川越中守殿より家来切紙を以 笠部

大輔殿夏より病氣ニ而被引居候処

此節快出勤被致候付明日五時半登

城病後御礼被申上様奉書到来被致候

旨爲御知申来ル御心得申進候旨

手紙入ル

昭和廿八年五月廿六日寫本終

本書原本は松原村田井田端春三氏

所蔵にかゝるものなり。

あとがき

この『紀州候江戸藩邸大奥日記』は、天保十四（一八四三）年九月から（閏九月を含む）十月、三ヶ月間の紀州藩江戸屋敷大奥の記録である。
時の藩主は十一代徳川^{なりゆき}斉順の時代で、治宝がまだ隠居として健在の時ある。
メロドラマの大奥日記ではなく、事務方の台所日記である。
この田端家の記録は原本か写本か不明であり、此処に写された三ヶ月分だけか、それ以上残っているのか不明である。また『南紀徳川史』に記載があるかまだ調べていないが、多分記載されていないのではないかと思う。

平成十九（二〇〇七）年五月十九日

清水 章博